

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部/学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウシニワ シンワガクエン 学校法人 親和学園								
フリガナ大学の名称	コベ シンワ ジョウガク iversity 神戸親和女子大学 (Kobe Shinwa Women's University)								
大学本部の位置	兵庫県神戸市北区鈴蘭台北町七丁目13番1号								
大学の目的	本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、建学の精神に基づき社会の発展方向を広く視野におき、学芸に関する多様な教育研究を通して豊かな教養を培い専攻に係る学識を深めることによって、総合的判断力を持ち主体的に社会に対応できる人間を育成する。								
新設学部等の目的	心理学的な視点や手法を用いて様々な組織や企業の活動をサポートし発展に貢献できる人材、または心理臨床の知識と技術をもとに、自己及び人々の心身の健康と共感的で円滑な人間関係の構築に貢献できる人材を育成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	文学部 (Faculty of Literature) 心理学科 (Department of Psychology) 計	4年	60人	—人	240人	学士(心理学) (Bachelor of Arts (Psychology))	令和3年4月 第1年次	兵庫県神戸市北区鈴蘭台北町七丁目13番1号	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	発達教育学部 心理学科(廃止) (△60) ※令和3年4月学生募集停止 文学部 総合文化学科→国際文化学科(令和3年4月名称変更予定)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	文学部 心理学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位			
		114科目	28科目	11科目	153科目				
教員の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設分	文学部 心理学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
			5人 (5)	3人 (3)	1人 (1)	0人 (0)	9人 (9)	—人 (—)	17人 (17)
	既設分	文学部 国際文化学科	11 (11)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	— (—)	17 (17)
		発達教育学部 児童教育学科	27 (27)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	38 (38)	— (—)	35 (35)
		発達教育学部 ジュニアスポーツ教育学科	5 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	— (—)	19 (19)
		大学共通	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	45 (45)
計		43 (43)	12 (12)	4 (4)	0 (0)	59 (59)	— (—)	— (—)	
合計		48 (48)	15 (15)	5 (5)	0 (0)	68 (68)	— (—)	— (—)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		33 (33)		43 (43)		77 (77)		
	技術職員		0		0		0		
	図書館専門職員		1 (1)		0		0		
その他の職員		0		0		0			

要	計		34 (34)	43 (43)	人	77 (77)	人	
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校 舎 敷 地	18,129㎡	0㎡	0㎡	18,129㎡			
	運 動 場 用 地	11,423㎡	0㎡	0㎡	11,423㎡			
	小 計	29,552㎡	0㎡	0㎡	29,552㎡			
	そ の 他	3,745㎡	0㎡	0㎡	3,745㎡			
	合 計	33,297㎡	0㎡	0㎡	33,297㎡			
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	20,469㎡ (20,469㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	20,469㎡ (20,469㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	3 3 室	1 4 室	1 7 室	4 室 (補助職員 人)	0 室 (補助職員 人)			
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数				
	文学部 心理学科			9	室			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
		文学部 心理学科	249,500 [45,310] (249,500 [45,310])	4,378 [3,168] (4,378 [3,168])	2,873 [2,814] (2,873 [2,814])	4,375 (4,375)	2,875 (2,875)	0 (0)
	計	249,500 [45,310] (249,500 [45,310])	4,378 [3,168] (4,378 [3,168])	2,873 [2,814] (2,873 [2,814])	4,375 (4,375)	2,875 (2,875)	0 (0)	
	大学全体							
図 書 館	面積		閲覧座席数		取 納 可 能 冊 数			
	2,740㎡		249		236,000			
体 育 館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	1,811㎡		テニスコート3面 トレーニング室 エアロビクススタジオ 多目的ダンス室					
経 費 の 見 積 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		教員1人当り研究費等	500千円	500千円	500千円	500千円	— 千円	— 千円
	経 費 の 見 積	共同研究費等	2,500千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円	— 千円	— 千円
		図書購入費	9,050千円	9,050千円	9,050千円	9,050千円	— 千円	— 千円
	設 備 購 入 費	56,994千円	56,994千円	56,994千円	56,994千円	56,994千円	— 千円	— 千円
		学生1人当り 納付金	第1年次 1,400千円	第2年次 1,170千円	第3年次 1,170千円	第4年次 1,170千円	第5年次 — 千円	第6年次 — 千円
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、手数料、資産運用収入、第3号基本 金引当特定預金を財源として経費を支弁する。					
大 学 の 名 称	神戸親和女子大学							
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	取容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
既 設 大 学 等 の 状 況	文学部	年	人	年次 人	人	倍		
	総合文化学科	4	60	—	240	0.85	平成15年	兵庫県神戸市北区 鈴蘭台北町七丁目 13番1号
	発達教育学部 児童教育学科	4	215	—	840	1.16	平成17年	
	心理学科	4	60	—	240	0.78	平成17年	令和3年度より学生 募集停止
	福祉臨床学科	4	—	—	—	—	平成17年	
	ジェニアスポーツ教育学科	4	80	—	300	1.14	平成20年	平成31年度入学定 員増(20人)
	(通信教育課程) 児童教育学科	4	200	3年次 400	1600	0.10	平成18年	※平成31年度より 学生募集停止(福 祉臨床学科及び (通信教育課程)福 祉臨床学科)
(通信教育課程) 福祉臨床学科	4	—	3年次 200	800	0.19	平成18年	令和3年度より学 生募集停止(発達 教育学部心理学 科)	
文学研究科修士課程 心理臨床学専攻	2	15	—	30	修士(心理学)	0.33	平成14年	

教育学専攻	2	20	—	40	修士(教育学)	0.69	平成14年	
附属施設の概要	該当なし							

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校を取容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況					新設学部等の学年進行 終了時における状況						
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
発達教育学部 心理学科 (廃止)	学士 (心理学)	文学	文学部心理学科	9	5	文学部 心理学科	学士 (心理学)	文学	発達教育学部心理学科	9	5
			計	9	5						
文学部 総合文化学科	学士 (文化学)	文学	文学部国際文化学科	12	11	文学部 国際文化学科 (名称変更)	学士 (文化学)	文学	文学部総合文化学科	12	11
			計								
			計					計			
						/					
			計								

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
平成10年4月	文学部人間科学科 設置	文学、教育学・保育学 社会学・社会福祉学	設置認可(学科)
平成15年4月	文学部人間科学科の学生募集停止	—	学生募集停止(学科)
平成15年4月	文学部心理臨床学科 設置	文学	設置認可(学科)
平成17年4月	文学部心理臨床学科の学生募集停止	—	学生募集停止(学科)
平成17年4月	発達教育学部心理臨床学科 設置	文学	設置届出(学部)
平成20年4月	発達教育学部心理臨床学科→心理学科	文学	名称変更(学科)
令和3年4月	発達教育学部心理学科の学生募集停止	—	学生募集停止(学科)
令和3年4月	文学部心理学科 設置	文学	設置届出(学科)

教育課程等の概要														
(文学部 心理学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
ベーシック・スキル	基礎演習Ⅰ	1前	1				○		1	2				
	基礎演習Ⅱ	1後	1				○		1	2				
	健康行動学	1前	2				○							兼1
	ICT基礎Ⅰ	1前	1				○							兼1
	ICT基礎Ⅱ	1後	1				○			1				兼1
	総合英語Ⅰ	1前	1					○						兼3
	総合英語Ⅱ	1後	1					○						兼3
	Interactive EnglishⅠ	1前	1					○						兼1
	Interactive EnglishⅡ	1後	1					○						兼1
小計(9科目)	—	—	10	0	0		—		1	2	0	0	0	兼7
外国語コミュニケーション	Interactive EnglishⅢ	2前		1			○							兼1
	Interactive EnglishⅣ	2後		1			○							兼1
	Interactive EnglishⅤ	3前		1			○							兼1
	Interactive EnglishⅥ	3後		1			○							兼1
	Face to Face English	1後		1			○							兼1
	留学英語	1前		1			○							兼1
	フランス語Ⅰ	1前		1			○							兼1
	フランス語Ⅱ	1後		1			○							兼1
	ドイツ語Ⅰ	1前		1			○							兼1
	ドイツ語Ⅱ	1後		1			○							兼1
	中国語Ⅰ	1前		1			○							兼2
	中国語Ⅱ	1後		1			○							兼1
	中国語Ⅲ	2前		1			○							兼1
	中国語Ⅳ	2後		1			○							兼1
	韓国朝鮮語Ⅰ	1前		1			○							兼2
	韓国朝鮮語Ⅱ	1後		1			○							兼1
韓国朝鮮語Ⅲ	2前		1			○							兼1	
韓国朝鮮語Ⅳ	2後		1			○							兼1	
文化の中の人間	哲学	1後		2			○							兼1
	心理学概論	1前		2			○			2				
	日本史	1後		2			○							兼1
	世界史	1後		2			○							兼1
	文学と文化	2前		2			○							兼1
リベラルアーツ	法学	1前		2			○							兼1
	社会学	1前		2			○							兼1
	日本国憲法	1後		2			○							兼1
	政治学	1前		2			○							兼1
	経済学	1前		2			○							兼1
	ボランティア実習	1前		1				○						兼1
	環境教育論	2前		2			○							兼1
	情報と社会	2前		2			○							兼1
	現代と金融	2後		2			○							兼1
	人権問題	2前		2			○							兼1
女性をとりまく社会	家族社会学	1後		2			○							兼1
	女性学	1前・後		2			○							兼1
	少子社会	2前		2			○							兼1

生命と自然	基礎体育学	1後		1		○								兼2	共同		
	物理学	1後		2		○								兼1			
	人間と自然	1前		2		○								兼1			
	栄養学	1後		2		○								兼1			
	数学	1前		2		○								兼1			
	地球環境	2後		2		○								兼1			
多文化を生きる	神戸学	2前		2		○								兼1	隔年 隔年 隔年		
	多文化社会	2後		2		○								兼1			
	国際理解教育論	2後		2		○								兼1			
	海外語学研修	1休		3		○								兼1			
	海外英語研修	1休		3		○								兼1			
	アジア文化研修	1休		2		○								兼2			
情報シテラ	情報科学	1前		2		○								兼1			
	情報処理演習A	2前		2			○							兼1			
	情報処理演習B	2後		2			○							兼1			
	情報処理演習C	2前・後		2			○							兼1			
キャリアデザイン	キャリア探求I	1後		2		○			1								
	キャリア探求II	2前		2		○			1								
	キャリアアップA	3前		2		○								兼1			
	キャリアアップB	3後		2		○								兼1			
	キャリアアップC	4後		2		○				1							
	インターンシップA	2前・後		1		○								兼1			
	インターンシップB	2前・後		1		○								兼1			
	海外インターンシップ	2前		2		○								兼1			
日本語コミュニケーション (留学生)	日本語I	1前		1		○								兼2			
	日本語II	1前		1		○								兼1			
	日本語III	1後		1		○								兼1			
	日本語IV	1後		1		○								兼1			
	日本語V	2前		1		○								兼1			
	日本語VI	2前		1		○								兼1			
	日本語VII	2後		1		○								兼1			
	日本語VIII	2後		1		○								兼1			
	日本語能力試験I	1前		1		○								兼2			
	日本語能力試験II	1前		1		○								兼1			
	日本語能力試験III	1後		1		○								兼1			
	日本語能力試験IV	1後		1		○								兼1			
	日本事情I	2前		2		○								兼1			
	日本事情II	2後		2		○								兼1			
	日本事情研究I	2前		2		○								兼1			
	日本事情研究II	3後		2		○								兼1			
	小計(76科目)	—	0	120	0	—			0	3	0	0	0	0		兼51	
合計(85科目)		—	10	120	0	—		1	3	0	0	0	0	兼56			
必修科目	基本科目	臨床心理学概論	1前	2		○					1				兼2 兼2 兼2 兼1	オムニパス オムニパス	
		発達心理学概論	1前	2		○				1							
		感情・人格心理学	1後	2		○					1						
		心理学実験・実習A	1前	1				○			1						
		心理学実験・実習B	1後	1				○			1						
		学習・言語心理学	2後	2		○				1							
		社会・集団・家族心理学	2後	2		○					1						
		心理学研究法I	2後	2		○											兼1
		心理学的支援法	2後	2		○						1					
	小計(9科目)	—	16	0	0	—		3	3	1	0	0	0	兼3			
演習科目	心理学基礎演習I	2前	2		○			1	2								
	心理学基礎演習II	2後	2		○			1	2								
	心理学専門演習I	3前	2		○			4	3	1							
	心理学専門演習II	3後	2		○			4	3	1							
	心理学専門演習III	4前	2		○			4	3	1							
	心理学専門演習IV	4後	2		○			4	3	1							
	卒業研究	4通	6		○			4	3	1							
小計(7科目)	—	18	0	0	—		4	3	1	0	0	0					

選択科目	基幹科目	ビジネス・社会心理学コース	経営学	1後		2		○									兼1				
			企業分析論	2前		2		○										兼1			
			広告心理学	3前		2		○				1									
			消費者心理学	3後		2		○											兼1		
			産業・組織心理学	3前		2		○				1									
			キャリア支援の心理学	3後		2		○											兼1		
			社会心理学実験・実習	2後		1				○			1								
			知覚・認知心理学	2後		2		○					1								
			色彩心理学	2前		2		○					1								
			色彩学	2後		2		○					1								
			音楽心理学	2後		2		○											兼1		
			心理学プログラミング実習	3後		1				○									兼1		
			公認心理師・臨床心理士コース	発達臨床心理学Ⅰ	2前		2		○						1					兼1	オムニバス
				発達臨床心理学Ⅱ	2後		2		○						1						
				臨床心理学実習	2前		1				○				1					兼1	オムニバス
				カウンセリング	3前		2		○						1						
精神疾患とその治療	3後			2		○			1			1						オムニバス			
心理的アセスメント	3前			1				○									兼1				
青年心理学	2前			2		○											兼1				
福祉心理学	2後			2		○											兼1				
障害者・障害児心理学	3後			2		○											兼1				
司法・犯罪心理学	3前			2		○											兼1				
関係行政論	3後			2		○											兼1				
公認心理師の職責	3前			2		○				1			1					オムニバス			
心理演習	3後			2				○		1	1							オムニバス			
心理実習	3前3休			2					○	4	1	1						オムニバス			
子ども実習	2休			1					○	1											
神経・生理心理学	3前			2		○											兼1				
健康・医療心理学	2前		2		○											兼1					
人体の構造と機能及び疾病	3後		2		○											兼1					
小計 (30科目)	—	0	55	0	—				4	3	1	0	0			兼13					
学部内共通科目	デザイン思考論	1前		2		○											兼1				
	社会イノベーション論	2後		2		○											兼1				
	プレゼンテーションの技法	2後		2		○											兼1				
	ビジネス心理学	1後		2		○					1										
	経済心理学	2前		2		○					1										
	マーケティング論	2後		2		○											兼1				
小計 (6科目)	—	0	12	0	—				0	2	0	0	0			兼3					
発展科目	粧いの心理学	1前		2		○												オムニバス			
	家族心理学	1後		2		○						1									
	子どもから見た世界	1後		2		○				1											
	発達心理学	2後		2		○											兼1				
	教育・学校心理学	3後		2		○						1									
	神経心理学	2前		2		○											兼1				
	自然環境と心理	1前		2		○											兼1				
	スポーツ心理学	2前・後		2		○											兼2	オムニバス			
	英書講読A	3前		2		○						1									
	英書講読B	4前		2		○				1											
	情報と統計	1前		2		○											兼1				
	心理学統計法	2後		2		○						1									
	多変量解析	4前		2		○						1									
	心理学研究法Ⅱ	3前		2		○				1											
	心理学実験	3後		1					○	1											
	海外心理学研修	1休		3					○	1								隔年			
小計 (16科目)	—	0	32	0	—				2	3	0	0	0			兼6					
合計 (68科目)			—	34	99	0	—		4	3	1	0	0			兼21					

学位又は称号	学士（心理学）	学位又は学科の分野	文学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
共通教育科目群から必修科目10単位、選択科目10単位以上、専門教育科目群から必修科目34単位、選択科目42単位以上を修得し124単位を修得すること。 （履修科目の登録の上限：50単位（年間））			1 学年の学期区分	2学期
			1 学期の授業期間	15週
			1 時限の授業時間	90分

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要														
(発達教育学部 心理学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
ベ イ シ ン ク ・ ス キ ル	基礎演習Ⅰ	1前	1				○		1	2				
	基礎演習Ⅱ	1後	1				○		1	2				
	健康行動学	1前	2				○							兼1
	I C T 基礎Ⅰ	1前	1				○							兼1
	I C T 基礎Ⅱ	1後	1				○			1				
	総合英語Ⅰ	1前	1					○						兼3
	総合英語Ⅱ	1後	1					○						兼3
	Interactive EnglishⅠ	1前	1					○						兼1
	Interactive EnglishⅡ	1後	1					○						兼1
小計(9科目)	—		10	0	0		—		1	2	0	0	0	兼5
外 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	Interactive EnglishⅢ	2前		1			○							兼1
	Interactive EnglishⅣ	2後		1			○							兼1
	Interactive EnglishⅤ	3前		1			○							兼1
	Interactive EnglishⅥ	3後		1			○							兼1
	Face to Face English	1後		1			○							兼1
	留学英語	1前		1			○							兼1
	フランス語Ⅰ	1前		1			○							兼1
	フランス語Ⅱ	1後		1			○							兼1
	ドイツ語Ⅰ	1前		1			○							兼1
	ドイツ語Ⅱ	1後		1			○							兼1
	中国語Ⅰ	1前		1			○							兼2
	中国語Ⅱ	1後		1			○							兼1
	中国語Ⅲ	2前		1			○							兼1
	中国語Ⅳ	2後		1			○							兼1
	韓国朝鮮語Ⅰ	1前		1			○							兼2
	韓国朝鮮語Ⅱ	1後		1			○							兼1
韓国朝鮮語Ⅲ	2前		1			○							兼1	
韓国朝鮮語Ⅳ	2後		1			○							兼1	
文 化 の 中 の 人 間	哲学	1後		2			○							兼1
	心理学概論	1前		2			○			2				
	日本史	1後		2			○							兼1
	世界史	1後		2			○							兼1
	文学と文化	2前		2			○							兼1
リ ベ ラ ル ア ー ツ	法学	1前		2			○							兼1
	社会学	1前		2			○							兼1
	日本国憲法	1後		2			○							兼1
	政治学	1前		2			○							兼1
	経済学	1前		2			○							兼1
	ボランティア実習	1前		1					○					兼1
	環境教育論	2前		2			○							兼1
	情報と社会	2後		2			○							兼1
	現代と金融	2後		2			○							兼1
	人権問題	2前		2			○							兼1
女 性 を と り ま く 社 会	家族社会学	1後		2			○							兼1
	女性学	1前・後		2			○							兼1
	少子社会	2後		2			○							兼1

生命と自然	基礎体育学	1後		1		○								兼2	共同	
	物理学	1後		2		○								兼1		
	人間と自然	1前		2		○								兼1		
	栄養学	1後		2		○								兼1		
	数学	1前		2		○								兼1		
	地球環境	2後		2		○								兼1		
多文化を生きる	神戸学	2前		2		○								兼1	隔年 隔年 隔年	
	多文化社会	2後		2		○								兼1		
	国際理解教育論	2後		2		○								兼1		
	海外語学研修	1休		3		○								兼1		
	海外英語研修	1休		3		○								兼1		
	アジア文化研修	1休		2		○								兼2		
情報シテラ	情報科学	1前		2		○								兼1		
	情報処理演習A	2前・後		2			○							兼1		
	情報処理演習B	2前・後		2			○							兼1		
	情報処理演習C	2前・後		2			○							兼1		
キャリアデザイン	キャリア探求 I	1後		2		○			1					兼1 兼1 兼2 兼1 兼1 兼1	オムニバス	
	キャリア探求 II	2前		2		○			1							
	キャリアアップ A	3前		2		○										
	キャリアアップ B	3後		2		○										
	キャリアアップ C	4後		2		○										
	インターンシップ A	2前・後		1		○										
	インターンシップ B	2前・後		1		○										
	海外インターンシップ	2前		2		○										
日本語コミュニケーション (留学生)	日本語 I	1前		1		○								兼2		
	日本語 II	1前		1		○								兼1		
	日本語 III	1後		1		○								兼1		
	日本語 IV	1後		1		○								兼1		
	日本語 V	2前		1		○								兼1		
	日本語 VI	2前		1		○								兼1		
	日本語 VII	2後		1		○								兼1		
	日本語 VIII	2後		1		○								兼1		
	日本語能力試験 I	1前		1		○								兼2		
	日本語能力試験 II	1前		1		○								兼1		
	日本語能力試験 III	1後		1		○								兼1		
	日本語能力試験 IV	1後		1		○								兼1		
	日本事情 I	2前		2		○								兼1		
	日本事情 II	2後		2		○								兼1		
	日本事情研究 I	2前		2		○								兼1		
	日本事情研究 II	3後		2		○								兼1		
小計 (76科目)		—	0	120	0	—			0	2	0	0	0	0	兼51	
合計 (85科目)		—	10	120	0	—			1	2	0	0	0	0	兼56	
必修科目	基本科目	学習・言語心理学	2後	2		○			1						兼1 兼1 兼2 兼2	オムニバス オムニバス
		臨床心理学概論	1前	2		○					1					
		発達心理学概論	1前	2		○				1						
		感情・人格心理学	1後	2		○					1					
		健康・医療心理学	2前	2		○										
		心理学研究法 I	2後	2		○										
		心理学実験・実習 A	1前	1				○			1					
		心理学実験・実習 B	1後	1				○			1					
	小計 (8科目)		—	14	0	0	—			2	2	1	0	0	兼4	
	演習科目	心理学基礎演習 I	2前	2			○			1	2					
		心理学基礎演習 II	2後	2			○			1	2					
		心理学専門演習 I	3前	2			○			4	3	1				
		心理学専門演習 II	3後	2			○			4	3	1				
心理学専門演習 III		4前	2			○			4	3	1					
心理学専門演習 IV		4後	2			○			4	3	1					
卒業研究		4通	6			○			4	3	1					
小計 (7科目)		—	18	0	0	—			4	3	1	0	0	0		

選択科目	基幹科目	現代女性の心理学	1前		2		○			1										
		粧いの心理学	1前		2		○			2									オムニバス	
		童話の心理学	1後		2		○												兼1	
		情報と統計	1前		2		○												兼1	
		自然環境と心理	1前		2		○												兼1	
		青年心理学	2前		2		○												兼1	
		音楽心理学	2後		2		○												兼1	
		色彩心理学	2前		2		○				1									
		スポーツ心理学	2前・後		2		○													兼2
		キャリア支援の心理学	3後		2		○													兼1
		消費者心理学	3後		2		○													兼1
		子どものころがわかるプログラム	子どもから見た世界	1後		2		○				1								
			家族心理学	1後		2		○				1								兼1
			福祉心理学	2後		2		○												
思いやりの心理学	2後			2		○				1										
発達心理学	2後			2		○												兼1		
発達臨床心理学Ⅰ	2前			2		○					1									
発達臨床心理学Ⅱ	2後			2		○					1									
障害者・障害児心理学	3後			2		○													兼1	
教育・学校心理学	3後			2		○				1										
子ども実習	2休			1				○		1										
臨床心理（心の専門家）プログラム	心理学統計法	2後		2		○				1										
	心理学的支援法	2後		2		○					1									
	カウンセリング	3前		2		○					1									
	精神疾患とその治療	3後		2		○			1		1									
	社会心理学実験・実習	2後		1				○		1										
	心理学研究法Ⅱ	3前		2		○			1											
	心理学実験	3後		1				○	1											
	臨床心理学実習	2前		1				○				1						兼1		
	心理的アセスメント	3前		1				○										兼1		
	心理演習	3後		2				○	1	1										
	英書講読A	3前		2			○			1										
英書講読B	4前		2			○			1											
小計（33科目）	—	0	61	0	—			3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	兼11		
発展科目	知覚・認知心理学	2後		2		○					1									
	神経心理学	2前		2		○													兼1	
	社会・集団・家族心理学	2後		2		○					1									
	産業・組織心理学	3前		2		○					1									
	神経・生理心理学	3前		2		○													兼1	
	公認心理師の職責	3前		2		○			1		1								オムニバス	
	司法・犯罪心理学	3前		2		○													兼1	
	人体の構造と機能及び疾病	3後		2		○													兼1	
	関係行政論	3後		2		○													兼1	
	心理実習	3前・3休		2					○	4	1	1							オムニバス	
	海外心理学研修	1休		3					○	1									隔年	
小計（11科目）	—	0	23	0	—			3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	兼4		
合計（59科目）			—	34	92	0	—		4	3	1	0	0	0	0	0	0	0	兼19	
学位又は称号		学士（心理学）			学位又は学科の分野			文学関係												
卒業要件及び履修方法							授業期間等													
共通教育科目群から必修科目10単位、選択科目10単位以上、専門教育科目群から必修科目32単位、選択科目42単位以上を修得し124単位を修得すること。 （履修科目の登録の上限：50単位（年間））							1学年の学期区分				2学期									
							1学期の授業期間				15週									
							1時限の授業時間				90分									

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(文学部心理学科等)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベーシック・スキル	基礎演習 I	親和行事、学科行事を体験することにより、親和の建学の精神を身につけるとともに、大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける。4年間の学習計画を立て、大学で学ぶことと自分の進路を明確にする。大学での履修の仕方を学び、自分の進路を実現するための科目履修、効率的に学ぶ姿勢を身につける。授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける。最終回の授業に今までのまとめとして、レポートの提出を課す。	
	基礎演習 II	大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心に学ぶ。主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる、ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる、この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書く、常用漢字の知識を確かなものにするを旨とする。	
	健康行動学	私たちの身の回りには健康に関する情報が溢れている。この講義では、私たちの身近に散乱している健康に関する様々な情報をきちんと見分け、そのために必要な知識を学ぶ。健康状態の判定と評価(血圧、標準体重、体脂肪率など)、カラダの仕組み～骨格筋の働き、健康と肥満～ウエイトコントロール、運動処方とプログラムの作成、健康の三要素を学び、生活スタイルを見直し改善できるようになることを目指す。	
	I C T基礎 I	パソコンはもはや文房具であり、使えることが付加価値であるのではなく、使えることが前提となっている。この講義では、パソコンを用いた情報処理の中から、最も基本的なファイル操作方法の理解、ウェブページの閲覧、電子メールの送受信、文書の作成(ワードを使ったタイピング、エクセルを使った表計算)、情報モラル、プレゼンテーションを取り上げ、それらを利用するための基本的な知識を演習を通して修得することを目的とする。	
	I C T基礎 II	エクセルなどの表計算ソフトは、レポートや卒論などでの利用価値が大きく、また卒業後も多くの仕事で使いこなせることが要求される。その一方で、ワープロと異なりすぐには使いこなせないため、独学よりも授業で学ぶ方が効率的に学習できる。またこの授業では、プレゼンテーションソフトの応用と簡単な画像の編集についても学ぶ。表計算ソフトの基本的な操作説明、基本的な関数、目的に合わせたグラフを作成できること、プレゼンテーションソフトのスマートアート、スライドマスターが利用できること、簡単な画像編集ができることを目的とする。	
	総合英語 I	中学校や高等学校で身につけてきた英語力を客観的に測定し、より一層の伸長を促す科目である。測定対象は、「リスニング力」と「リーディング力」である。客観的な測定方法は、TOEIC(国際コミュニケーション能力テスト)で行う。開始時に1回目、終了時点で2回目を実施し、力の伸長を測定する。また、授業の中でもTOEICの模擬試験を3回実施し、2回目のTOEICに備える。国際基準の中で、自身の英語力を意識してもらい、国際的なコミュニケーション能力を伸ばしてもらうことを目指している。	

	総合英語Ⅱ	総合英語Ⅰに引き続き、中学校や高等学校で身につけてきた英語力を客観的に測定し、より一層の伸長を促す科目である。測定対象は、「リスニング力」と「リーディング力」である。客観的な測定方法は、TOEIC（国際コミュニケーション能力テスト）で行う。春学期開始時に1回目、春学期の終了時点で2回目を実施し、力の伸長を測定する。また、授業の中でもTOEICの模擬試験を3回実施し、2回目のTOEICに備える。国際基準の中で、自身の英語力を意識してもらい、国際的なコミュニケーション能力を伸ばしてもらうことを目指している。	
	Interactive English I	英語でコミュニケーションをとることの楽しさを、実践を通して確認する。会話でのコミュニケーションを核に、聞く、読む、話す、書く、の4技能（5領域）を総合的に学び、より進んだ英語学習への基礎となる力を身につけることを目的とする。日常的な場面で簡単なコミュニケーションがとれるよう、その基礎力を養成していく。そして身近な話題について、世界的な視野から学び、その内容を英語で理解し、自分の考えを簡潔に伝える技能を培う。	
	Interactive English II	英語でコミュニケーションをとることの楽しさを、実践を通して確認する。会話でのコミュニケーションの基礎を軸に、聞く、読む、話す、書く、の4技能（5領域）を総合的に伸ばしていく。テキストを用いた学習活動を中心に、日常的な場面での英語によるコミュニケーション力を向上させ、また身近な話題について、世界的な視野から学んでいく。そして当該内容を英語で理解し、自分の考えを英語で簡潔に伝えることができるよう、訓練を重ねていく。	
	Interactive English III	英語で授業を行い、4技能（5領域）の運用能力のさらなる向上を目指す。本授業では、語彙力の増強、発展的文法事項の理解、対話の中での英語の安定的運用、プレゼンテーション能力増進を目標とする。そして、長文読解力、長文作成力も合わせて向上させながら、より高いレベルの英語力を身につけていく。授業の後半では、英語での論理的思考力、表現力が身につくよう、発信型の学習形態に焦点を置きながら、スピーチ、ディスカッションの作業に多くの時間を充てていく。	
	Interactive English IV	授業では、英語での論理的思考力、表現力の充実を図り、発信型の英語力にさらに磨きをかける。プレゼンテーションとディベートの作業に特に注力し、他者に対し、分かりやすく、納得してもらえらるための語彙力、英語表現力の不足部分を補っていく。また発音、イントネーションの領域、しぐさ、身体を使った表現形式についても、見識を深め、自分自身で解説できる段階まで向上させる。本授業では音声面、身体的側面に特に配慮し、場面に応じて適切に情報を発信できる能力を確立させることが到達目標となる。	
	Interactive English V	「自立した言語使用者」として、身近な話題について主要な点の聞き取り、読解ができるようにし、また関心のある事柄について要点を明確に話し、文章で表現することができるよう、実践的な練習を行う。授業は、コミュニカティブ・アプローチの手法で構成され、英語の4技能（5領域）の運用能力において、各領域のバランスを維持しつつ、CEFR B1 相当レベルでのトレーニングを行う。また、専門的な内容についても準備時間を確保したうえで、明快なプレゼンテーションが行える能力を養う。	
	Interactive English VI	英語の高度なりテラシースキルを習得し、4技能5領域の実践力、応用力を完成させる。各回の学習を通して、リベラルアーツの各領域（文化、現代社会、環境、生命と自然）を英語で即座に理解できる読解力とロジスティックに自身の意見が展開できる文書表現力を確立する。加えて、自然な速度で話されている英語を的確に理解できる聴解力、定型表現や慣用表現を織り交ぜながら相手に情報伝達できる口語表現力を習熟させる。TOEFLやIELTSといった各種英語資格試験問題も適宜取り入れながら、客観的に到達度を測り、国際社会で求められる英語力を体現する。	
	Face to Face English	カランメソッドを用いたオンラインライブ型英会話レッスンを通して、「英語を聞く・話す」ための実践的な英語力を養う。現実の場で多用されるコンストラクション（省略語）を聞き取る能力を身につけ、Yes、Noだけでなくフルセンテンスで話す習慣を体得する。また日本人が苦手とされる”L”と”R”、”S”と”TH”、”B”と”V”といった類音について、聞き取りおよび発音ができる技能を習得する。また一対一の対面式の環境を生かし、即座に反応できる即応力も身につける。	

留学英語	海外研修の各場面で求められる実践的会話力と英語でのプレゼンテーションに必要な表現力を身につける。また、これまで経験した事項だけでなく、未経験の領域のトピックについても、想像力を働かせながら、スピーチやディベートができる能力を培っていく。スピーキング、ライティング、リスニング、リーディング、スピーチ、ディベート、プレゼンテーションの各領域に及ぶ統合的な英語技能を習得し、実践的な英語運用力(CEFR3 B2レベル以上)を身につけることを到達目標とする。	
フランス語 I	フランス語の基本的な文の仕組みと表現を学び、CDを用いてフランス語の発音と会話も理解することで、フランス語の綴り字をきちんと読むことができ、挨拶や自己紹介などをフランス語で表現できるようになることを目指す。また、DVDなどによるフランスの映像を見て、実際のフランスの様子を体感する。	
フランス語 II	フランス語のさらに進んだ文法、表現の習得をめざす。また、アニメや映画などの映像資料を用いて、フランス語の聞き取り練習を行うことで、フランス語の日常表現が理解できることを目指す。日常会話をフランス語で表現できるようにする。また、動詞や冠詞などの基本表現を文法的に正しく書くことができる。正確に聞き取りができるようになる。	
ドイツ語 I	この授業の目的は次の①～④である。①言葉は使いながら身につけるということを実践する、②ドイツ語でのコミュニケーションの楽しさを実感する、③ドイツの生活と文化に触れ、異文化体験の楽しさを理解する、④ドイツ語と日本語との驚くような類似と相違に気づくことである。授業の内容は、ドイツの紹介から始まり、ドイツ旅行と滞在の楽しさ、自己紹介、ドイツでの買い物・生活に必要な言葉、手紙の書き方等を学ぶ。	
ドイツ語 II	この授業の目的については、次の①～④である。①ドイツ人学生と簡単なドイツ語でコミュニケーションを図れるようになる。②互いの予定を曜日・時刻で調整して会う約束ができるようになる。③レストランに入ってメニューを読み、注文・支払いができるようになる。④電話でも必要最少限の会話ができるようになる。これらの目的を達成するため、ドイツの大学へ留学することを仮定し、留学生の1日、週末の過ごし方、友人との電話、待ち合わせの約束等の場面で使うドイツ語を学ぶ。	
中国語 I	ピンインを見て、正しく発音ができ、簡単な挨拶や自己紹介ができることを目標とする。テキストをもとに、「聞く、話す、読む、書く」の技能全般をバランスよく学習していく。CD、DVDなどを利用して、既習した内容の理解を深め、更に先生との口頭練習とグループの会話などによって、定着させる。受講生の積極的参加を前提とする。この授業は、正確な発音の習得と基本になる構文から簡単な会話や聞く力の養成を目指す。	
中国語 II	中国語 I を習得した学生を対象に、テキストに基づいて、新しい語句、会話文を繰り返し暗記することによって、基礎文法をしっかりと身につけ、簡単な日常会話ができることを目指す。授業では、日付・時刻の表現、動作の時点を言う表現、助動詞、介詞、反復疑問文、「是～的」の構文、中国の風習や縁起等を学び、旅行について会話練習を行う。習得した知識を確認しながら、新しい文法を進め、初級中国語の総合的な力を養うことを目的とする。	
中国語 III	身近なテーマや場面で、場面別の日常の挨拶表現など日常会話を話せるようになることを目指す。他に、場面に応じた数字の読み方、時刻と時量の用法や、判断文と文末助詞、副詞、助動詞、形容詞等の文法についても学ぶ。授業内ではグループやペアで毎回「聞く・書く・話す・読む」を行う。中国語検定試験4級合格を目指し、初級レベルの聞く、会話と表現力の養成を目標とする。	

中国語Ⅳ	身近なテーマや場面で、日常会話を表現できるようになることを目指す。具体的には、未来形（快要、快了）金額の表現、買い物の表現、常用前置詞（从，到，在）、連動文と選択疑問文、動詞の重ね型、”是”的“的”の文：肯定、疑問と答え方、手段、原因を尋ねる方法・様子、状況を探ねる方法等を学ぶ。授業内ではグループやペアで毎回聞く・書く・話す・読むを行う。中国語検定試験4級合格を目指し、初級レベルの聞く、会話と表現力の養成を目標にする。	
韓国朝鮮語Ⅰ	韓国朝鮮語の文字（日本語のハングル表記）と発音（基本母音、基本子音、パッチム、発音の規則）からはじめ、韓国朝鮮語を理解するために必要な文法事項と基本的な会話表現を教科書に沿って学ぶ。韓国文化の概要についても学ぶ。「話す・聴く・書く・読む」の4技能の総合的な運用能力が習得できるようにする。ハングル文字と発音を習得し、韓国朝鮮語で書かれた簡単な文の読みと作文の書き、簡単な自己紹介ができるようになることを目指す。	
韓国朝鮮語Ⅱ	韓国朝鮮語Ⅰに引き続き、テキストに沿って基礎文法と基本的な会話表現などを学ぶ。「話す・聴く・書く・読む」の4技能の総合的な運用能力が習得できるようにする。また、韓国文化、日韓関係、行事など文化についても学ぶ。基礎文法や会話表現を習得し、慣用表現などを駆使して日常の身近なテーマについて話ができることを目指す。また与えられたテーマについて簡単な韓国朝鮮語で自分の意見を述べられることを目標とし授業を進める。	
韓国朝鮮語Ⅲ	これまで学んだ韓国朝鮮語の文法知識を確実なものにするとともに、日常の身近なテーマを取り上げてすぐに使える表現を学び、実際の会話に応用する練習を行う。自己紹介、数字を使った表現、韓国の社会や文化、頻度を表す副詞、接続詞（順接・逆接）等を学び、授業の最終回では、講義で学んだ文法・表現法の確認及び作文・発表を行う。与えられたテーマについて適切な語彙や文型を駆使して書くこと、話すことができることを目標とする。	
韓国朝鮮語Ⅳ	これまで学んだ文法知識を確実なものにするとともに、日常の身近なテーマを取り上げてすぐに使える表現を学び、実際の会話に応用する練習を行う。先行動作、勧誘、動詞・存在詞の連体形、理由、推測・意志、仮定・条件、形容詞の現在連体形、動詞の過去連体形、順序、経験等を学び、授業の最終回では、講義で学んだ文法・表現法の確認及び作文・発表を行う。実際のコミュニケーションに必要な実用的文型と語彙を習得することを目標にする。	
哲学	哲学の根本問題の一つである「良心とは何か」という問いを主導的問いとして、哲学者がどのような仕方により善い生き方を探究し、その生の実現を目指してきたかを学ぶ。「良心」をめぐる哲学的課題、ソクラテス、キユニコス学派、モンテーニュ、パスカル、デカルト、カント、ニーチェ等さまざまな哲学者の思索と努力の軌跡を学ぶことを通じて、多くの難問を抱えている現代社会に生きる私たちにとっての善い生き方とは何かを考察したい。	
心理学概論	本講義の目的は心理学のおおよその全体像をつかむことである。見たり聞いたり感じたり考えたり、ときには悩んだりといった人間の行動のすべての側面が心理学に関わっていることを学ぶ。私たちが日常的にイメージする「こころ」よりも遥かに広い領域が心理学の対象である。その中から心理学の成り立ち、基礎的な領域（感覚、知覚、認知・記憶、言語・思考、社会・発達、人格、健康）を中心に概説する。	
日本史	日々の暮らし、学びと働き、家制度と結婚、社会的権利や政治参加など、現代を生きる女性たちに向けたテーマをあげて、女性の視点から日本の近現代史をひも解き、社会への関心を高める。そして、与謝野晶子の詩歌「君死にたまふことなかれ」や小説『不如帰』、『コシノ洋装店ものがたり』、『二つの文化のはざまから』など、文学作品などを通じて活字メディアに親しむ。	

文化

の中 の 人 間	世界史	ヨーロッパの歴史に関する文学作品を紹介し、作品の内容や作者について、またその作品が執筆された時代背景について学習し、西洋史における一般的な知識と歴史の流れを理解する。それによってグローバル社会の中で、知っておくべきヨーロッパやアメリカの歴史や文化について理解を深めたい。歴史学および、文学、人類学、考古学、美術史など関連する諸分野について理解を深める。歴史を理解することによって、現代の様々な問題や現代社会について考える。	
	文学と文化	「天（あめ）の海に雲の波立ち月の船星の林に漕ぎ隠る見ゆ」（『万葉集』詠み人知らず）、「麦わらの帽子の君が揺れたマリーゴールドに似てる」（「マリーゴールド」あいみょん）。この千数百年を隔てた日本語の詩に共通する技法は、文学的には「比喩表現」と呼ばれるが、より広い文化的な視野からは「見立て」ということになる。「見立て」とは、全く無関係なもの同士の間（無理矢理に）類似点を発見しようとする一種の遊び。どの文化にもあると思われるが、上の二つの例に見るように、日本では昔から今に至るまでとても好まれてきた。江戸時代には特に高度に発達して、奇抜な見立てを絵画化した「見立絵本」と呼ばれる文学ジャンルまで生まれているが、中には現代の人気コンテンツ「妖怪ウォッチ」に出てきそうなものもある。講義はこの「見立絵本」を読むことが中心になるが、受講者自身に見立ての写真を撮ってきてもらったり、見立ての妖怪を考えてもらったりといった要素も、発表やレポートとして取り入れるつもりである。	
	法学	法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための「規則」である。そのため、自然科学的な「法則」とは異なり、1つの問題に対する回答（考え方）も多様で、唯一絶対的な答えというものが存在しない点で非常に面白い。このような法の特徴と目的を踏まえつつ、現実社会の中で生じている紛争に、法がどのような役割を果たし、かつ、こうした紛争をいかなる基準を用いて解決しているかについて、具体的な事件を参照しながら理解することを主たる目標とする。	
	社会学	社会を知るということは、単に知識量が多いことを意味するのではなく、社会について「考える」ことが必要である。社会学という「社会を考える方法」というツールを通すことで、現代社会における人々の生活や、それが引き起こす社会問題について理解を深める。社会について理論的に考える方法が分かる。自分の経験や知識を相対化することができる。	
	日本国憲法	憲法は、専断的になりがちな公権力を規制し、国民の権利を広く保障しようとする国家の枠組みを定めた基本法である。日本国憲法は、人権保障を最大の目的として、主に基本的人権の保障とそれを担保するために制度設計された統治機構の規定から構成されている。こうした基本的人権及び統治機構の規定をめぐる争われる、私人と公権力間に生じうる諸問題について、なるべく身近な事例を取り上げながら、解説する。	
	政治学	様々な報道を通じて、政治活動や国際関係を考察します。具体的には、メディアと政治、水資源の民営化、環境汚染と国際関係、戦争と歴史・戦争の民営化、「子ども兵」問題、災害援助・食糧援助による国益、ダイヤモンド利権と国連PKO、中国の経済発展と国際関係、宗教団体と国際政治、日本の領土問題等を考察する。その他、受講生の関心や時事的な要素を取り入れた授業を行う。	
現代社会	経済学	新聞やニュースなどで見聞する経済問題（現象）がどのようなメカニズムで動いているのかを理解し、その問題（現象）について自分なりに考えられるようになることを目標とする。講義では第1に経済学という学問の位置づけをあきらかにし（経済と経済学）、第2に現実の経済問題（現象）を理解するために必要な基本的なツール（GDPを中心に考えるマクロ経済、マクロ経済における需要と供給）を学び、第3にこれらのツールを用いて第2次世界大戦後から現在までの日本の経済問題（現象）をどのように捉えることができるかを考えていく。	

と市民	ボランティア実習	阪神淡路大震災以来、ボランティア活動が注目され、その社会的意義が問い直されている。この科目は社会におけるボランティア活動の意味と意義を正しく理解し、実践する力を養成し大学における学びに生かすことを目的としている。高校時代にボランティア活動を経験した人もいると思うが、今後、大学生として自ら社会に対して積極的に関わることが求められる。自分自身で実習先を探し、多くの人たちと関わることによって視野を広げ、この中で新しい気づきが生まれ、自分が成長したと実感できるようになることが目標である。	
	環境教育論	本講義では、地球環境を環境教育の視点から捉える。環境教育は、環境倫理学、環境心理学、環境人間学などにかかわるため、学際的な教育論を展開する。授業の目的として、環境意識の啓発、環境意識の多様さ、地球環境問題の現状と解決を多元的に理解することをめざす。講義の経過において、環境教育はフィールドワークが大切であるので、野外の自然体験も随時紹介する予定である。本講義では様々な環境問題を理解し、これらを解決するためには何が重要かを考える力を養い、これらの問題を身近な生活と関連づけて考え、それを行動に移すためにはどうすればよいかを、感じ、考え、自ら行動できるようになることが到達目標である。	
	情報と社会	コンピュータ及びインターネットの発展に伴い社会生活も大きく変化しつつある。情報社会の基盤となっている基本的な技術や、人と人とのコミュニケーション方法の変化について理解するとともに、現代の情報システムと企業活動や社会基盤における役割、性質、また情報社会における功罪について学ぶ。	
	現代と金融	資本市場に求められる役割とは何か。激変する日本の資本市場の全容と投資のリスク&リターンのか考え方、株式投資・債券投資・ポートフォリオ運用・投資信託・外国為替相場など証券投資における重要なテーマとリスク&リターン、投資家の心理、これからの成長産業を実務の観点から解説する。金融・資本市場の基本的な仕組みを理解し、投資判断のできる実践的な視点を養うとともに、ライフプランニングと資産形成、資産形成と非課税制度の活用についても考察する。	
	人権問題	「人権問題」の講義では、人権の歴史、基本的な考え方などを学び、現代社会の人権状況や問題点（マイノリティと人権、社会と人権、労働と人権、医療と人権等）について理解を深めることを目的としている。また実際の新聞記事や映像資料、授業内でのディスカッションを通して、個人と人権との関わりを感じ、身の回りの人権課題への気づきや理解を期待する。講義の後半では「女性と人権」というテーマのもと、受講生により身近な人権課題へ焦点を絞っていく。	
女性をとりまく社	家族社会学	現代の社会において、家族は転換点を迎えつつある。少子化や未婚化が進み家族を持つことは努力して行うことになりつつある。その一方で、家族の絆が強調され、親や子供の責任に注目が集まっている。家族の困難と、家族の重要性が同時に注目されるのはなぜか。家族はこれからどうなるのか。今後の家族像を模索するために、この講義では、現代と過去における家族の姿とその社会との関わりについて論じる。	
	女性学	社会における女性の姿が大きく変わりつつある今、仕事・キャリアプラン、セクシュアル・ハラスメント、税制、年金、社会保障、少子高齢化社会、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法を学び、女性をとりまく環境を理解することを目的とする。現代の女性に関する諸問題について理解し、将来社会における「これからの女子に求められるもの」について自分なりの展望を持ち、ワークライフバランスを考えることができることを目標とする。	

社会	少子社会	これからの日本を支えていくのは今を生きる子どもたちである。内閣府は、少子化の要因について、①「結婚しない・できない者の割合が増加している」②「結婚する時期が遅くなっている」③「夫婦が持つ子どもの数が少なくなっている」ことをあげている。また、『少子化危機突破のための緊急対策』として、①「子育て支援」と②「働き方改革」をより一層強化するとともに、③「結婚・妊娠・出産支援」を対策の柱として打ち出すことにより、これらを『3本の矢』として推進している。一方、社会問題として、雇用、格差、貧困など、不安な社会の要因がある。こうした問題にも着目して少子社会について考える。	
生命と自然	基礎体育学	現在「健康」に関するいくつかの問題が我々に問いかけてられている。身体的健康・精神的健康・社会的健康の概念を理解することを目的とする。本講義では身体活動（体力測定を行い体力年齢を知る、ソフトバレー、テニス、フライングディスク、ニュースポーツ）を通して3つの健康にアプローチして研究実践を行う。①運動の理解と体力の維持・向上、②人間関係の構築と友人作り、③集団での責任と義務の3つをスポーツを通して学ぶ。	
	物理学	教養として身につけておくべき物理学の基礎についての講義を行う。日常生活で目にする現象を物理の視点から考える。例えば晴れた日の空が青いのはなぜか、虹はなぜ見えるのかなど。高校で物理を学習していない学生にもわかるように複雑な数式や法則を使わずに基本となる概念と考え方を平易な言葉で解説する。内容は、「単位とは(国際単位系SI)」、「物体の運動とエネルギー」、「熱と温度」、「電気と磁気」、「波(音と光)」、「放射線と原子力」などである。	
	人間と自然	古来より人間は自然の中で暮らしてきた。自然が少なくなったと叫ばれる現代においても、私たちは自然の恩恵を得ながら生活している。では、身の周りの自然はどのように形成され、そして維持されているのでしょうか。この講義では人間を含む地球上のすべての生物を生み出した進化の基礎および進化の過程、種と種分化を学ぶ。そして、人間と自然の関わり合い、自然の探求について考えることで、生物多様性の総合的な理解を目指す。	
	栄養学	近年、私たちを取り巻く生活環境、社会環境の変化とともに食事の内容が大きく変化してきている。このような状況の中で、栄養情報が氾濫し、「何をどのように食べるか」といった健康や食生活に関する情報の取捨選択能力が求められている。心身の成長・発達が急速に進む乳幼児期の栄養状態は、その後の肥満や生活習慣病などと関連があることが報告されていることから、一人ひとりが自らの健康を守る意識と行動を抜きにしては効果的な健康づくりは望めない。自分の健康を自身で守るためのツールとして栄養の知識を習得する。	
	数学	初等教育の学習内容をベースとして、①関数（2次関数）、②数と式（約数と倍数、不等式、不定方程式、整数解・合同式）、③資料の整理（データの分析、順列、組合せ、確率）、④平面図形と空間図形の四分野について、高等学校で学習すべき基礎的事項を確認し定着させる。講義と演習を通して、教養として身につけておくべき数学を修得する。特に、高等学校学習内容を中心に、数学の有名な事項にも触れることで、知識の拡充を図り数学的思考力を養う。	
	地球環境	「地球環境」問題を環境学・環境倫理学の立場から考察する。地球環境は自然環境、社会環境、文化環境、生活環境、精神環境などから成り立っているため、多角的な理解が必要になる。地球温暖化や海洋プラスチックごみなどの地球環境問題は、各国による対処では解決できず、国境を越えた対応を必要とする地球的課題である。今日起こっているさまざまな環境問題の解決のためには、まず「地球環境」について“グローバルな（地球規模の）視点”から考えて、“ローカルな視点（足元や身近な地域）”で行動することが大切である。私たちの身近な生活から見えてくる地球環境問題とのつながりを学び、人間と環境ののぞましい関係について考える。	

多文化を生きる

神戸学	国際都市・神戸は古代から港とともに発展してきた過程がある。神戸の町がどのような歴史を刻み、現在の都市を築き上げたのか。1000年に及ぶ歴史を振り返りながら、文化、観光、くらし、グルメ、ファッションなどを通して、近代日本をけん引した神戸の人とまちの姿を浮き彫りにする。神戸のことなら一通りは分かる知識と教養を身につけることが目標である。神戸から世界、世界から神戸を見つめる「グローバル」な視点、考え方を授業で養う。	
多文化社会	多文化社会とは、少数者への理解と配慮、少数文化に対する尊重がなされる社会を指す。そしてその果実が、それぞれの文化が出会うことによる、より豊かな文化の創造である。この講義では、偏見と差別、偏見が生まれるメカニズムを学び、「セクシュアル・マイノリティ」、「難民」などという言葉を手がかりに、文化、価値観が多様化する日本社会の新しい姿を考え、そこに暮らす多様な人たちの権利に関する理解を深めることを目的とする。	
国際理解教育論	日本国内外の「国際化」、それに関連する（特に教育に関する）課題について理解すること、「教育開発」、「開発教育」に関する基本概念や背景を理解すること、「教育開発」に関する運営・企画の方法や実態、「開発教育」に関する基本概念や参加型学習の実践方法について体験、応用する力を身につけること、ディスカッション・プレゼンテーションを主体的に行い、他者の考えを尊重し、自分の意見を伝えるスキルを身につけることを目標とする。	
海外語学研修	オーストラリア・シドニー大学Centre for English Teachingで3週間の英語研修を行う。午前中は一般英語の授業で、プレイスメントテストにより振り分けられたクラスを受講する。午後は、週3日を標準としてCET講師によるプレゼンテーショントレーニングプログラムを受講する。オーストラリアの文化に関連するトピックについて現地でフィールドワークを行い、プレゼンテーション資料を完成させ、研究成果を現地発表会の中で報告する。オーストラリアの文化背景を深く理解し、プレイスメントテストで得た成績を上回る英語力に達することを本授業の到達目標とする。	隔年
海外英語研修	カナダ・トロント大学における4週間の英語研修を行い、日常会話を十分に理解できる英語運用能力の習得を目指す。事前指導として、教室、街中、ホームステイ先で必要なフレーズを学習し、日常生活で積極的にコミュニケーションをはかる姿勢を身につける。また、カナダの歴史・社会・文化・言葉について理解を深め、リサーチ発表を行う。トロント大学CETでの研修中は、各自の所属クラスにおいて積極的に授業参加をし、課外においても、各種活動への参加や大学施設を利用した学習活動が求められる。多彩な経験を基にした実践的な英語運用能力の向上が到達目標となる。	隔年
アジア文化研修	近年、日本とベトナムとの交流は質量ともに充実しつつある。経済協力や観光のみが着目されがちであるが、ベトナムは中国文明の影響を受けつつ、独自の文化を育て上げてきた点では日本と共通点が多い。この研修ではホーチミン師範大学を訪問し、日本語学部の子生たちと双方向的な学びを実践しつつ、ベトナムの文化や歴史について理解を深める。	隔年
情報科学	インターネットや携帯電話、また、TVや雑誌などのマスメディア等、高度情報社会では様々な情報が氾濫している。しかし、その仕組みを知らないことも多く、そのために情報をうまく活用できないこともあり、さらには犯罪に巻き込まれるケースがある。この講義では、現在の仕組みやマナー・ルールを概説し、グループ活動による演習形式で理解を深める。	
情報処理演習A	情報化の進展にともなって、情報を効率よく管理する技術や考え方が求められている。本講義では、そうした技術・考え方の一つである「データベース」について、概念を理解しながら、実際に「データベース」を構築することを目的としている。具体的には、Microsoft Accessを用いたデータベース作成の実習を行う。「データベース」の基本的な考え方を理解し、Microsoft Accessを使って基礎的なデータベースを作成できるようになることが目標である。とりわけ、データベース設計の基本となる正規化の理解は最重要である。正規化を含め、未整理のデータを「自分で」整理できるようになること、そしてそれを運用できるようになることが、より具体的な目標である。	

情報リテラシー

シ	情報処理演習 B	現在の情報化社会ではインターネットを用いた様々なサービスは非常に重要な位置を占めている。その中でも、ウェブページを構成するためのHTMLは、基礎的技術として重要度が高い。この授業では、HTML (HTMLによるウェブページ作成方法の理解) とCSS (CSSを用いたウェブページのデザインの理解) を用いたWebページ作成・運用について学ぶ。また、FTPを用いたウェブページ転送の理解、段組を用いたウェブページ作成についても修得する。	
	情報処理演習 C	情報社会におけるリテラシーとしてプログラミングの基礎を学ぶことを通して、コンピュータのしくみや原理への理解やアルゴリズム的思考の理解を深める。構造化プログラミングやオブジェクト思考の基礎を学び、意図した動作をプログラミングによって実現できる力を身につける。基本的なサーチ、ソートアルゴリズムについて説明できるようになる。プログラミングを通して、問題解決のプロセスをコントロールする力を身につける。	
	キャリア探求 I	社会経済環境や、働くこと、仕事についての基礎的な知識を得る、自分の現在、過去、未来を見つめ、自分の夢や目標 (ビジョン) を描く、これまでの自分自身を振り返り、将来に向けてこれからの大学生活でどのようなことに取り組むのか、どのように学ぶのかを自分で考え、行動できるようにするために社会や仕事への興味・関心を広げ、それらの基礎知識を習得を目指す。	
キャリアデザイン	キャリア探求 II	現実社会や就労に関する見識を深め、自分の将来のキャリア (生き方、働き方) を自ら探求し行動していくことが大切である。この授業では、若者や女性の就労に関する現実のさまざまな問題を知り、自分の将来と関わらせて考え、仕事や働くことへの理解と自己理解を深める。将来の社会的・職業的自立への意識を高め、自分のキャリアプランを作成し、グループディスカッションを通して自分の考えを伝える力を養う。	
	キャリアアップ A	様々な進路 (企業への就職、教員採用試験受験等) に対応し、クラス別に開講する。企業向けとしては、就職活動開始を前にどのような生き方、仕事や働き方がしたいかを考える。興味のある職業、仕事、企業について情報収集し、具体的に考え、学ぶ。さらに、社会で必要とされる姿勢や態度、コミュニケーションスキルについて学ぶ。教員採用試験クラスにおいては、教職へのキャリア形成に必要な教職教養、一般教養について、基礎的・基本的な内容を学ぶ。	
	キャリアアップ B	様々な進路 (企業への就職、教員採用試験受験等) に対応し、クラス別に開講する。企業向けとしては、就職試験に出題される数学的事項 (主に中学校・高校の範囲) を学ぶことで、数的感覚の育成と実社会で発生する問題を解決してゆく論理性を培う。教員採用試験クラスにおいては、キャリアアップ A の学習のうえに立って、基礎的な内容の理解を深める。	
	キャリアアップ C	社会人となるために、具体的な準備を行い、自信を持って社会人の第一歩を踏み出すこと、就職してから直面する、仕事現場の理想と現実のギャップ (リアリティショック) を乗り越え、変化に適応しながら活躍していく基礎力を築くことを目的とする。企業等の組織の論理、ビジネス・仕事現場で実際に必要となる様々な知識、スキル、ビジネスマナーや、社会人として知っておくべきお金やキャリア形成について、実際の就職先を想定しながら具体的なワークを通じて習得する。	
	インターンシップ A	将来目指す職業や関連する職業の現場を経験することで、自らの専攻や研究に対する理解を深めるとともに、適性を知る。また、インターンシップを通じて就業先の情報収集を行う。就業体験から得たものを振り返り、志望業種・職種の決定や就業後の適応力を身につけることを目的とする。事前・事後の学習と就業体験から、働く意味や自己の可能性を見つめ、よりよい将来像を構築する。	

インターンシップB	将来目指す職業や関連する職業の現場を経験することで、自らの専攻や研究に対する理解を深めるとともに、適性を知る。また、インターンシップを通じて就業先の情報収集を行う。就業体験から得たものを振り返り、志望業種・職種の決定や就業後の適応力を身につけることを目的とする。事前・事後の学習と就業体験から、働く意味や自己の可能性を見つめ、よりよい将来像を構築する。	
海外インターンシップ	[ローマの学校] 本学連携協定校である文部科学省在外教育施設「ローマ日本人学校」において、学校ボランティアとして教育実習を行い、特色ある教育を学ぶ。 [ミラノの幼稚園] 本学連携協定幼稚園である「マリア・コンソラトリーチェ幼稚園」において、幼稚園ボランティアとして教育実習を行い、イタリアの教育・保育を学ぶ。	
日本語Ⅰ	文学・評論・自然科学の分野のさまざまな著名な作品を読みながら、今まで身につけた「読み」の日本語力を拡大し、深めていく。また、作品を通して日本人の考え方、文化を学ぶ。さらに、縦書きの文章に慣れる。「ことば」の意味を確認したうえで、文章の構造、文法を理解しながら内容を理解し、内容理解の問題を解くよう授業を進める。	
日本語Ⅱ	大学での講義を聞く、専門書を読む、レポートを書く、発表をするなどの学習活動を円滑にするための日本語を身につけるために、その基礎となる中、上級レベルの文法を学ぶ。学習活動（特に、文章作成）において、学び得た知識が運用できる。主に、助詞の働き（時間、原因・理由、限定・協調、逆説、程度等）、文末表現を中心に授業を進め、学習活動（特に、文章作成）において、学び得た知識が運用できることを目標とする。	
日本語Ⅲ	中上級から上級レベルの文法で、混乱しやすい動詞を中心に、基本的な形と意味・機能をしっかり把握し、文脈での使い方や類似表現との使い分けができるようになる。自動詞と他動詞/使役/受身といった文法を形と意味、使い方、発展的利用を整理し、会話や文章のなかで正しく自然に表現できるようにする。時事問題なども取り上げ、日本語の理解力と語彙力の向上を目指して練習する。	
日本語Ⅳ	専門の文章（入門書や論文など）が読めるようになるためのヒントとなるストラテジーを学ぶ。また、社会科学の各分野、「経済学」「法学」「社会学」「国際関係学」などの基本となる用語や知識を身につける。主題、論点、要旨を文章中から見つけることができ、対立する二つの立場における筆者の立場を見抜くことができ、社会科学における基本的な知識、用語が身につく、専門の文章を読む時のストラテジーが身につくことを目的とする。	
日本語Ⅴ	大学生にふさわしい、論理的かつアカデミックな文章を、正確にわかりやすく書く力の育成と定着を目指す。専門的な文章を書くために必要な表現力を身につけ、出来るだけ正確な日本語のレポートが書けるようになることを目的とする。文法（助詞、他動詞、自動詞、接続詞、呼応・文末表現）、ひらがなと漢字のバランス、句読点について、その他語彙・表現を広げるための授業を行う。	
日本語Ⅵ	いろいろなタイプの日本語を聞き、情報や内容を聞き取る力をつける。 聞いた話全体から話し手の意見や意図を聞き取る。また知りたいことを集中して聞き取るコツを身につける。その後、聞き取った内容をまとめて話したり、その内容についての自分の意見をわかりやすく話したりする力を身につける。聞いた話のさまざまな内容から、大切な部分を掴み取り、話についての自分の意見を要領よく話したり、他の人と話し合ったり、自分の生活について、短いスピーチをしたりすることができることを目標とする。	

日本語Ⅶ	論理的な文章を書くのに必要な日本語力を身につけ、論文を書く力をつけることを目標とする。論理的な思考方法を身につける、日本語での論理的な文章の展開方法を学び、それを意識した文章構成を考える、正しい日本語の運用を身につけ、テーマに沿った文章を作成する。論理的な文章作成に必要な文体・表現を学び、さまざまなテーマ（歴史的な経緯、分類、定義、要約、比較・対照、論説文、資料の活用）で文章を作成する。	
日本語Ⅷ	テーマに沿った情報の収集やグラフの読み取り、文献検索、アンケート調査方法を身に付け、考察し、聞き手を意識した話の構成や表現方法で原稿を作成し、研究結果を発表する。主に、研究内容を発表するための資料を収集し、集めた資料を分析した上で要約し発表原稿を作成する、発表のための話し方や資料の見せ方などを練習する、課題発表を通して発表を実践し、最終発表に向けてパワーポイントを使用した発表形式を練習する。	
日本語能力試験Ⅰ	日本語能力試験N1レベルにふさわしい実力を身につけること。漢字読み書き、音のパターン、意味が多い語彙、意味が似ている語彙、文法の知識を整理し、N1合格またはそれ以上の語彙力・文法知識を習得し、文字・語彙を増やし、文法理解と運用力を身につける。各回に練習問題のプリントを配布し、練習をし、解答と解説を行う。また、復習の確認テストをして、実力を測っていく。	
日本語能力試験Ⅱ	「聴解」の目安として、「幅広い場面において自然なスピードの、まとまりのある会話やニュース、講義を聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係や内容の論理構成などを詳細に理解したり、要旨を把握したりすることができる。」を目指す。また「読解」では、「幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現、意図を理解することができる。」を目指す。	
日本語能力試験Ⅲ	「日本語能力試験」受験準備講座として、N1レベルの「文字・語彙」「文法」問題に対応できる読解力、聴解力の力を育成する。授業では、文法を中心に日本語能力試験対策用のテキストを使って問題を解いていく。問題を解いていく中で学生が間違いやすい問題や難解な問題を解説していく。文字・語彙に関しては、事前に宿題として課し、授業ではその確認テストを毎回行う。確認後、再度課題とし、定着を図る。	
日本語能力試験Ⅳ	日本語能力試験N1に合格できる聴解力および読解力を養う。同時に、試験対策にとどまらない全般的な「聴解」、「読解」の力をつける。「聴解」「読解」とも日本語能力試験対策用の練習問題をする。「聴解」は30分（指示・依頼・要求・提案・問題点・話題把握の聞き取り、慣用的な表現、複数の選択肢から条件に合ったものを聴き取る）、「読解」（短文・中文・長文の内容理解、広告からの情報読み取り、主旨把握）は60分でを行う。「読解」は解答と解説を行う。	
日本事情Ⅰ	あいさつからマナーまで、ビジネス日本語の基礎を学び、話す相手に応じた自然な会話をしたり、簡潔で失礼のないメール文を書いたりできるようにすることを目標とする。日常のあいさつ、会社内でのあいさつ、訪問（アポイントのあるもの、ないもの）、敬語（尊敬語・謙譲語・美化語）、ビジネスメール（依頼、問い合わせ、回答）、電話（一般・社内・社外）、会話実践練習と日本のビジネスマナーについて学ぶ。授業では、スキル定着確認のため、会話実践練習を定期的に行う。	
日本事情Ⅱ	ビジネス場面での敬語の使い方（尊敬語・謙譲語）がわかり、社内と社外で表現が異なることを意識して話せるようになることを目標とする。特に具体的な電話応対の表現、ビジネスメールでの表現を覚え、いろいろな状況（確認、承諾、提案・申し出、お詫び、苦情処理）に即した言葉遣いができるようになること、またビジネス場面での話し言葉、書き言葉の違いを意識し、的確な表現が使いこなせるようになることを目標とし、会話の実践的練習を授業内で取り入れる。	

	日本事情研究Ⅰ	「京都から学ぶ日本文化」をテーマに授業を進めていきたい。京都は、8世紀の終わりに都がおかれて以来、千数百年にわたって日本文化に大きな影響を与え続けてきた。日本の文化は、京都によって形作られたと言っても過言ではない。しかも、京都は古き都としてだけで存在しているわけではない。伝統の上に新しい文化を築いていくそんな躍動感のある都市でもある。本授業では、京都の歴史、宗教文化、代表的観光地、京ことば、伝統文化等について学ぶ。	
	日本事情研究Ⅱ	「日本の伝統文化」について、第一は日本的な季節感、人生観、思想等であり、第二は日本人の民俗、信仰、生活を研究する。授業の前半は、古今和歌集、竹取物語、源氏物語、枕草子、徒然草などの文学作品から季節感や日本の伝統文化を学ぶ。中間では、能、狂言、芸能、昔話と伝説、近代の小説を読む。後半では、日本アニメの研究、現代日本と東アジア、国際社会との関係について学ぶ。	
	臨床心理学概論	臨床心理学は、病気や障害、あるいは不幸な経験などによって引き起こされる心理的苦悩を軽減するために心理援助を行い、それを通して問題の解決や改善を目指す学問である。講義では主に①臨床心理学の成り立ち、②臨床心理学の代表的な理論について説明する。臨床心理学の基本的な理論モデル、臨床心理アセスメント、臨床心理技法について理解を深め、現代社会のさまざまな問題を臨床心理学的な視点で見つめられるようになることを目標として進める。社会のニーズに即応してさまざまな問題に対処できる専門的な方法について理解を深めることを目的とする。	
	発達心理学概論	子どもの発達および発達過程に関する基本的な知見や理論について理解できるようになることを目的とする。子どもの発達について関心を持ち、発達心理学の研究成果などに接することにより、発達心理学を学ぶ上の基礎固めをしていく。具体的には、まず発達への遺伝と環境の影響について学び、主な発達理論を概観する。そして、胎児、新生児、乳児、幼児、青年、成人、高齢者と生涯にわたる発達の特徴について学んでいく。また障害を持つ児童の発達の特徴や発達についても理解を深めていく。	
	感情・人格心理学	性格や人格の理論的な背景、形成過程、測定方法、不適応との関連など人格心理学の基礎を学び、「性格や人格とは何か」について心理学的に考えることを目的とする。また、各種の人格検査を用いて自己分析をする課題も取り入れる。講義では主に①感情に関する理論及び感情喚起の機序、②感情が行動に及ぼす影響、③人格の概念及び形成過程、④人格の類型、特性等について説明する。人格や感情に関する基礎的な心理学的知見についての知識を習得するとともに、人格や感情の観点から人間の多様性について理解し、自己や他者を客観的に捉える手がかりを得ることを目標とする。	
	心理学実験・実習A	心理学では人のこころのメカニズムを理解するうえで、仮説を立て実証する能力を身に付けることが求められる。心理学実験・実習Aでは、仮説を立て実証するための具体的な方法として心理学における実験手法を理解し実践できるようになることを目的とする。実際に心理学で用いられた実験手法を体験するとともに、それらの基本的な考え方を学んでいく。また、得られた結果を報告書やレポートにまとめることを通して、成果を公表するための手順と技術を学ぶことも目的とする。 (オムニバス方式/15回) (犬飼朋恵/7回) SD法の実験と解説、結果とまとめ、レポートの書き方 (小林 勇輝/4回) 系列位置効果の実験と解説、結果とまとめ (片山 綾/4回) ミューラー・リヤー錯視の実験と解説、結果とまとめ	オムニバス方式

基本科目

<p>心理学実験・実習B</p>	<p>心理学を学ぶ上で、先行研究を理解し、そこから仮説を導き、立証することが必要となる。心理学実験・実習Bでは、心理学実験・実習Aで学んだことを踏まえて、仮説を立て実証するための力を、実践を通して身に付けることを目的とする。具体的には3つの実験課題を課し、その中で先行研究を調べ、仮説を立て、それを立証するための方法を学び、結果のデータを分析し、考察する力を養う。また、成果を発表するうえで必要となる論文、レポートの書き方、考え方についても理解を深めていく。 (オムニバス方式/15回) (犬飼朋恵/7回) 一対比較法の実験と解説、結果とまとめ、レポートの書き方(小林勇輝/4回) 上方光源仮定、クレーター錯視の実験と解説、結果とまとめ(片山 綾/4回) 遅延割引の実験と解説、結果とまとめ</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>学習・言語心理学</p>	<p>人間の行動のルーツを考えたとき、その多くが学習過程に依存していることに気づく。人間が主体的に環境、とりわけ周囲の人間との関わりの中で様々な行動を獲得し、抑制している過程を説明するためには2つの条件づけ(古典的、道具的)を理解することが必須である。学習・言語心理学では、①人の行動が変化する過程、②言語の習得における機序について論じる。そして、「人間の行動変容過程(学習)の基礎過程である2つの条件づけを理解すること」、「言語の獲得過程の機序について理解すること」、「一人ひとりの日常的な行動を行動分析学の視点から見つめられるようになること」の三つを到達目標とする。</p>	
<p>社会・集団・家族心理学</p>	<p>人間は「社会的動物」とあるといわれている。それは、人間が生きるためには社会や他者の存在が必要不可欠だからである。人間の行動や心の働きと、社会や他者とがどのように関連しているかについて理解を深めることを目的とする。講義では主に①対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての過程、②人の態度及び行動、③家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について説明する。そして、「人の行動が、他者や社会からどのような影響を受けているかを理解できるようになること」、「対人関係などの身近なテーマについて心理学的観点から考えられるようになること」を目標とする。</p>	
<p>心理学研究法 I</p>	<p>私たちは、自分自身や周囲の人たちの「こころ」のはたらきに関して、毎日様々なことを経験している。そのような経験を通じて形成される知識は、時として誤っていたり偏っていたりするものである。心理学研究法Iでは、心理学の研究方法の基礎を学び、行動や心理現象を客観的に捉え、論理的に考える態度を身に付ける。①心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)、②データを用いた実証的な思考方法、③研究における倫理について理解を深めることを目標とする。</p>	
<p>心理学的支援法</p>	<p>心理学的支援が求められる場面は、教育・医療・福祉、あるいは司法や産業など幅広く、多様である。各分野で必要とされる知識や技法等に違いはあるものの、心の専門家としての基本的な視点が存在し、それを身につけることは重要である。本授業では、①代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界、②訪問による支援や地域支援の意義、③良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、④ プライバシーへの配慮、⑤心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、⑥心の健康教育について学ぶことを目的とする。</p>	
<p>心理学基礎演習 I</p>	<p>心理学を学ぶことは単に知識や技法を学ぶことだけではない。人間や人間をとりまく環境をどのように捉えるかという方法論を学び、それらに対する視点や哲学を模索することでもある。心理学基礎演習Iでは、読む(聞く・見る)、考える、書く(話す)という、これまでに行ってきた活動を、3年次以降の専門的な学習に必要なレベルまで高めていくと共に、社会人基礎力を養うことを目的とする。到達目標としては、「他者の話を聴いたり、資料や情報をきちんと読む力を獲得する」、「客観的・論理的に考える方法、拡散的な思考と収束的な思考を獲得する」、「論理的に自分の考えを話したり、書いたりする力を獲得する」、「心理学的な視点から考える力を身につける」の4つをあげる。</p>	

必修科目

演習科目

心理学基礎演習Ⅱ	心理学基礎演習Ⅱでは、心理学に関連する研究の文献検索や講読などを通じて、心理学の基礎知識や研究の方法論を学ぶ。また、個人あるいはグループで調べたことを発表し、ディスカッションする中で、ディベート能力や協働する力を学ぶ。本講義における到達目標は「必要に応じた情報を収集するための能力を身につけること」、「得られた情報の信頼性を客観的に判断する力を身につけること」、「自分の考えをわかりやすく他人に伝える技術を身につけること」の3つである。	
心理学専門演習Ⅰ	心理学専門演習Ⅰでは、臨床心理学、発達心理学、社会心理学、学習心理学、認知心理学など各教員の専門テーマをもとにゼミ形式での講義を行う。文献検索や発表、ディスカッションなどを通して、日常的に抱えている自分の興味や問題意識を明確化していく。そして、卒業研究に向けて興味のある研究テーマを見つけることを目的とする。また、本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができることを目標とする。	
心理学専門演習Ⅱ	心理学専門演習Ⅱでは、ゼミ形式で講義をすすめながら、心理学専門演習Ⅰで検討した研究テーマについて、先行研究や関連文献を読むことなどを通して理解をさらに深めていく。そして、研究の目的や仮説の生成をすることを目指す。また、研究計画を作成し、研究を行うための方法論（実験や調査、文研研究など）を具体化していく。その他にも論理的な考え方、わかりやすい論文の書き方、議論の仕方など、科学的なアプローチに必要なスキルのブラッシュアップをしていくことを目標とする。	
心理学専門演習Ⅲ	心理学専門演習Ⅲでは、卒業研究に向けて研究計画を練りこみ、データ収集のための準備を行う。各自の研究計画や目的に合わせ、調査項目の選定と調査票を作成することや、実験で用いるための刺激材料の作成、実験参加者集め、文献研究で必要となる文献データの収集などを行う。そして、データ収集後の分析や解析方法について理解を深める。また、研究を行う際に必要となる研究倫理基準を確認し、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策を理解しながら研究を遂行するための知識を身に付ける。	
心理学専門演習Ⅳ	心理学専門演習Ⅳでは、自身の興味関心・問題意識から絞り込んだ研究テーマについて、文献研究や実験・調査の実施とその分析、考察するための方法を身につけると共に、論文として表現できるようにすることが目標となる。ここでは、発表やディスカッションを通して、様々な文献を批判的に読解し問題点を導き出す力、収集したデータを科学的に分析し理解するための知識、客観的な視点から自分の意見を論じられるようになる表現力を身に付ける。	
卒業研究	臨床心理学、発達心理学、教育心理学、社会心理学、学習心理学、認知心理学など様々な心理学に関わる知識を踏まえ、自身の興味関心・問題意識から研究テーマを設定し、研究論文を作成する。研究に必要な問題の設定や仮説を生成するための批判的思考、仮説を実証するための方法論（実験、調査、観察、文献）、様々なデータや文献をもとに考察する力を身に付ける。テーマの設定や方法、考察については専門演習などでの話し合い、指導などを行いながら取り組んでいく。	
経営学	働いていくうえで必要となる企業の経営についての基礎知識を習得することを目的とする。企業がどのような戦略を立てて活動を行っているのか、そしてどのように組織をガバナンスし活動しているのかを中心に講義する。具体的な事例に触れながら、経営理論や経営者の役割、経済のしくみ、企業形態論、財務諸表論、コーポレート・ガバナンス、企業の社会的責任（CSR）、経営戦略、マーケティング、経営組織、人的資源管理、生産システム・生産管理などを取り上げる。	

<p>企業分析論</p>	<p>本講義の目的は、簿記についての知識を身に付けることや、企業や事業の価値を会計データをもとに評価する方法を学ぶことにある。例えば、有名ハンバーガー・チェーンやカフェ・チェーンの経営手法比較、アパレル業や化粧品企業の特徴、安心できる銀行の見つけ方、気になる会社の株価水準、就職したい会社のブランド価値などを、会計データを用いて分析する手法を身につける。簿記の基礎や企業価値評価、経営戦略分析、財務諸表分析、証券市場分析などについて講義する。</p>	
<p>広告心理学</p>	<p>私たちは、日々多くの広告を目にする。そこには様々な伝え手からのメッセージが含まれており、様々な心理学の理論が応用されている。本講義では、心理学の観点から広告のあり方についての理解を深めていく。具体的には、マーケティングと広告の関係、消費者心理を意識した広告の戦略立案、広告コミュニケーション過程とその効果、インターネット広告、口コミやSNSを利用した広告などについて、理論や先行研究、事例などを紹介しながら講義していく。広告における心理学の役割について理解を深めることを目標とする。</p>	
<p>消費者心理学</p>	<p>人々が日々行っている購買・消費について、提供する側のマーケティングと購買・消費する側の消費者行動の両面について学ぶ。心理学を中心とした理論の説明だけではなく、実践についても理解を深めていく。具体的には、マーケティングの諸理論についての解説、消費者行動における合理性の問題、消費者とのコミュニケーションのあり方などについて講義を行う。この講義を通して、マーケティングの理論と実践、そして消費者行動に対する理解が深まること、マーケティングと消費者行動論を合わせたビジネスのあり方がわかるようになることを目標とする。</p>	
<p>産業・組織心理学</p>	<p>組織の一員として働くときに、集団や組織において人ほどどのような心理状態を経験し、いかなる行動をとるのかについて理解することが必要である。産業・組織心理学では、主に①職場における問題（キャリア形成に関することを含む。）に対して必要な心理に関する支援、②組織における人の行動について講義を行う。具体的には、集団意思決定、組織内コミュニケーション、リーダーシップ、ヒューマンエラー、ワークモチベーション、就労におけるストレスとサポート、キャリア形成と支援について学ぶ。</p>	
<p>キャリア支援の心理学</p>	<p>生涯のうちにはさまざまな出来事が起こり、喜びや充実感に満たされる時もあれば、悲しみや苦しみに見舞われたり、色々な課題や選択肢を前にとまどいや不安を抱えることがある。そうしたライフサイクル、ライフイベント、ライフキャリアについて理解し、自分を見失わずに状況を客観的に見直し、自分の望む生き方に向けた決断や行動ができるように、手助けとなる心理学的理論や心理学的分析、解決に向けた心理学的アプローチを学ぶ。</p>	
<p>社会心理学実験・実習</p>	<p>社会心理学実験実習では、社会心理学で行われている様々なテーマの実験や調査をもとにし、実験者や参加者となって体験し、分析し、レポートにまとめていく。1年次の心理学実験・実習A/Bで学んだことをもとに、心理学の研究を行い論文を執筆するうえで必要な知識や技術を実践を通して身につけることを目的とする。また、データをまとめるうえで必須となる基礎的な統計の知識も身に着ける。また、社会心理学のテーマである私たちが周囲の人から受ける影響を実験を通して考えることもこの授業の目的である。</p>	

知覚・認知心理学	<p>私たちが普段何気なく行っている「見る」、「憶える」、「注意」などのこころの仕組みを明らかにしようとするのが知覚・認知心理学である。本講義では、主に①人の感覚・知覚等の機序及びその障害、②人の認知・思考等の機序及びその障害について解説する。知覚心理学や認知心理学の代表的な研究を紹介し、知覚・認知心理学的な手法の基本的な考え方を身につける。これにより、ヒトの心に対する科学的な見方を養い、社会での応用・実践のための知覚・認知心理学的な測定方法の基礎を習得することを目指す。記憶や視覚といった基礎的な研究と性差や加齢、障害などの応用的な研究についても学ぶ。</p>	
色彩心理学	<p>私たちは様々な色に囲まれて生活している。色彩心理学では、色が私たちの行動に及ぼす影響を理解するとともに、日常生活の中で色を効果的に利用する方法を学ぶ。具体的には、色が見える仕組み、色彩とイメージ、色彩の心理的効果、色彩とことば、色彩と調和、組み合わせの効果などについて学んでいく。本講義を通して、色が見える仕組みや行動に及ぼす影響を理解したうえで、実生活で色を効果的に利用できるようになることを目標とする。</p>	
色彩学	<p>色は、私たちの暮らしの様々な場面で利用されている。また人が取得するほとんどの情報が視覚から入る情報である。そのため色は私たちの生活に大きな影響を及ぼす。色彩学では、人の色の認識の仕方を中心に、ファッション、企画の提案などのプレゼンテーション、家具やインテリア、広告や工業製品などのデザインといった様々な場面でのように色が利用されているかについて学んでいく。感覚的に理解していた色の利用や影響について、色の理論や法則を学び、知識に基づいた色の利用方法を身に付けることを目標とする。</p>	
音楽心理学	<p>音楽心理学では、音の高さや大きさなどの音の知覚についての基礎的な知識を学ぶだけでなく、音楽を聞いている人の心理に関する諸研究を概観する。講義では様々な視聴覚教材を用い、演習や実験なども通じ、音楽が我々の心と深く結び付いていることを体験する。具体的には、音の構成要素、旋律の知覚、調性・リズムの知覚、音楽と感情、音楽と性格、音楽演奏の心理などについて学ぶ。音楽や音に関する心理学的知見について理解を深めるとともに、演奏や聴取についての新たな見方を身に付ける。</p>	
心理学プログラミング実習	<p>心理学の研究を行うにあたって、実験や調査を実施しデータ解析を行う必要がある。この時に、コンピュータを利用し実験を行ったり、データを分析したりする知識や技術が必要となる。本講義では、基本的な認知課題や知覚課題を用いた心理実験のプログラムを作成するための知識と技術を習得し、自分自身で計画した実験をできるようにすることを目指す。またデータ整理や分析に関するプログラムも作れるようになることを目指す。そして、実験ごとにレポート課題を課し、プログラミングを用いた実験でのレポートの書き方を身に付ける。</p>	
発達臨床心理学Ⅰ	<p>人は、誕生から死を迎えるまでの一生を通じて、成長・発達し続ける。発達臨床心理学Ⅰでは、胎生期から思春期までの発達特徴、および各発達段階において生じやすい心理臨床的諸問題について理解を深め、その支援方法について学ぶことを目的とする。具体的には、マルトリートメント、育児不安、発達障害、トラウマティックストレス、逆境の児童期体験とレジリエンス、不適応行動などについて理解を深める。発達における臨床心理学的知識を習得し、各発達段階の特徴を踏まえた支援方法を理解することを目標とする。</p>	
発達臨床心理学Ⅱ	<p>発達臨床心理学Ⅱでは、青年期以降の発達の特徴、および各発達段階において生じやすい心理臨床的諸問題について理解を深め、その支援方法について学ぶことを目的とする。具体的には、「青年期における自我同一性や人間関係の諸相、ひきこもり、統合失調症の理解と対応」、「成人期における職業選択と家族、子育て」、「中年期の危機と発達」、「老年期の死、エイジングと自尊感情」などについて理解を深めていく。発達における臨床心理学的知識を習得し、各発達段階の特徴を踏まえた支援方法を理解することを目標とする。</p>	

臨床心理学実習	<p>心理検査を行う意義や主要な心理検査に関する知識を学ぶとともに、参加者（心理テストを受ける側）に対する誠実さを身に付けることを目標とする。講義では、心理検査の基礎的な知識を学んだうえで、発達検査（新版K式発達検査）、知能検査（京大NX）、CMI検査、バウムテスト、風景構成法、YG性格検査などを体験しながら、検査結果を解釈するための力を身に付ける。そして、心理検査の結果を所見やレポートとして書く方法を身に付ける。</p> <p>（古川 心・高橋 美智子 全1回）（共同） （オムニバス方式/全14回） （古川 心/7回）</p> <p>箱庭療法、ロールシャッハテスト実施と解釈法、ウェクスラー式知能検査 （高橋 美智子/7回）</p> <p>心理アセスメント(NEO-FFI) (HTP) (P-Fスタディ) (POMS) 実施と解釈法、感受性訓練：トラストワーク、カラーージュ、粘土療法</p>	オムニバス方式 共同（一部）
カウンセリング	<p>本講義では、対人援助の基礎となるカウンセリングに関する理論と実践について学び、他者の話を聴き、主体的に理解する視点と技術や態度を身につけることを目的とする。カウンセラーとしての基本的な態度とクライアントの関係、臨床行動査定、質問紙や投影法、描画療法などにおける心理検査の理論と方法、学校現場、医療現場、子育て支援に関するカウンセリングのあり方、カウンセリング技法として、受容技法、共感技法、分析技法を学ぶ。</p>	
精神疾患とその治療	<p>精神医学は人間の存在を、生物学的、心理学的、社会的、倫理的に捉え、診断と治療はこれら多元的情報に基づき人間性を尊重しながら包括的に進められる。本講義では、①精神疾患総論（代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む。）、②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化、③医療機関との連携についての理解を深める。そして、精神医学の歴史と精神障害の分類、精神症状学、精神医学的診断学など精神医学総論と主な精神障害（うつ病、不安障害、統合失調症、パーソナリティ障害、ADHD、PTSDなど）について学び、精神医学が系統的に正しく理解されることを目的とする。</p> <p>（オムニバス形式/15回） （吉野俊彦/8回）</p> <p>精神医学及び精神医療の歴史的背景、精神障害の捉え方、診断、成因と分類。主な介入・支援方法について （古川心/7回）</p> <p>統合失調症、気分障害、不安や心的外傷及びストレスに関連した障害、発達障害、摂食障害など代表的な精神疾患について。</p>	
心理的アセスメント	<p>心理アセスメントや心理療法の基本的技法を中心に学習する。ここでは、主に①心理的アセスメントの目的及び倫理、②心理的アセスメントの観点及び展開を学ぶ。また、③心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）、④適切な記録および報告について学ぶ。本実習を通して、心理アセスメント、カウンセリングの基本技法、芸術療法や箱庭療法を体験的に学習し理解を深める。また、実習の結果について各自が得た気づきについて記録やレポートを作成する力を身に付ける。</p>	
青年心理学	<p>青年期は子どもから大人へと成長する過程にあり、将来に向けて自らの生き方を模索する時期であると共に、心身共に不安定になりやすい時期でもある。この授業では、青年期の特徴や、心理的問題のメカニズムを検討し、理解を深めることを目的とする。具体的には、ピアジェの発達理論、アイデンティティなどの青年期の心理的特徴や、親子、友人、恋愛などの青年期の人間関係の特徴、ストレス、心身症、摂食障害などの青年期特有の心理的問題のメカニズムを検討し、理解を深めることを目的とする。</p>	
福祉心理学	<p>臨床心理学の基本理念や方法を、実際の援助方法として取り入れている現場は、教育・司法・産業・医療・保健・福祉など様々な領域に及んでいる。中でも福祉領域は、最も多くの最も多様な人々を対象としている。本講座では、①福祉現場において生じる問題及びその背景、②福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援、③虐待についての基礎的な知識について学ぶ。それらを通して、援助を必要としている人たちの心理を理解し、支援していくための基礎的な知識と能力を身につけていくことを目的とする。</p>	

障害者・障害児心理学	障害のある子どもや人、その家族について理解し、心理的援助法及びその他の支援についても理解できるようになることを目的とする。本講義では、①身体障害、知的障害及び精神障害の概要、②障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について学ぶ。主要な障害の特性を理解し、心理的援助法や支援法の基本的事項を理解する。また、社会的な認識について理解する。具体的には、障害と出生前検査／診断、障害者自身による表現活動と当事者研究、障害への適応、差別解消と合理的配慮、障害者（視覚、聴覚、肢体不自由、ASD、SLD、ADHDなど）への理解と心理的援助について講義する。	
司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学では、様々な犯罪をケースごとに分析し、なぜ犯罪が起きたのか（犯罪原因論）理解する。また捜査への心理学の応用や、犯罪を犯した者や非行少年をどのように更生させていくかについて講義する。主な視点としては、①犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識、②司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について講義する。発達心理学や社会心理学、臨床心理学など様々な心理学の視点から、犯罪者や被害者の理解について学ぶ。	
関係行政論	公認心理師は、様々な人々を支援するため、多様な職業と連携しながらその職務を遂行する。そのため、公認心理師として活動するうえで必要となる法体系の知識と関係行政に関する知識を身に付ける。心理職に関係する「公認心理師法」をはじめ、クライアントをささえるための多くの法律や制度がある。この講義では、①医療保険分野、②福祉分野、③教育分野、④司法・犯罪分野、⑤産業・労働分野の5つの分野について関係する法制度や施設のあり方を説明し理解を深める	
公認心理師の職責	心理専門職の国家資格である公認心理師の職責について必要となる基礎的知識と具体的業務の理解、そして倫理観や多職種連携のあり方などを身に付けることを目的とする。講義では主に、①公認心理師の役割、②公認心理師の法的義務及び倫理、③心理に関する支援を要する者等の安全の確保、④情報の適切な取扱い、⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務、⑥自己課題発見・解決能力、⑦生涯学習への準備、⑧多職種連携及び地域連携の8つについて説明する。 (オムニバス形式/全15回) (古川 心/8回) 公認心理師の役割と法的義務について。保健医療、福祉分野での業務について。 (本間 友巳/7回) 公認心理師の多職種連携および地域連携、身に付けるべき能力について。司法、教育、産業分野での業務について。	オムニバス方式
心理演習	公認心理師として活躍するための知識及び技能について、基本的な水準の修得を目的とし、次に掲げる事項（ア～オ）を、ロールプレイングや事例検討などを通して取り上げる。（ア）心理に関する支援を要する者等に関して次の知識及び技能を修得する（①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援等）、（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成ができること、（ウ）心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチができること、（エ）多職種連携及び地域連携ができること、（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務が理解できること。 (オムニバス形式/15回) (伊東 真里/8回) カウンセリングの技法、職業倫理、法的義務の理解。医療・司法・産業領域での多職種連携のあり方 (松本 麻友子/7回) 支援計画の作成、チームアプローチ、福祉・教育領域での多職種連携のあり方	オムニバス方式

心理実習	<p>公認心理師として活躍するために必要となる知識及び技能について、実習（80時間以上）を通して修得する。実習場所としては、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪などの分野があげられる。実習に行く前は事前学習（調べ学習、プレゼンテーション、ディスカッション）を行う。そして、見学実習と事後学習（実習日誌の作成、現場での気づきの発表など）を行い、様々な機関における心理支援の実際に触れる。そして現場におけるチーム支援や多職種との連携・協働について学ぶ。</p> <p>（オムニバス形式/事前指導15回、実習、事後指導10回） （大島 剛/5回、実習担当） 実習のオリエンテーション、福祉施設での実習担当、事後指導（伊東 真里 /4回、実習担当） 保健・医療分野での心理職の役割、保健・医療施設での実習担当、事後指導（吉野 俊彦/4回、実習担当） 司法分野での心理職の役割、司法施設での実習担当、事後指導（古川 心/4回） 福祉施設での心理職の役割、福祉施設での実習担当、事後指導（本間友巳/4回） 教育施設での心理職の役割、心理相談室での実習担当、事後指導（松本麻友子/4回） 教育施設での実習担当、事後指導、成果発表</p>	オムニバス方式
子ども実習	<p>「子どものころがわかる」ようになるためには、座学だけではなくしっかりとした経験が必要となる。このために、神戸市内にある児童館に夏休み中（8月）に赴き、そこの職員の指導のもとで児童館活動の補助をする。実際に子どもと活発な交流をして、子どもたちが感じている気持ちや考えていることに生でふれることにより、子どもと付き合えるさまざまな技量を向上させる。保育、教育といった視点よりも、個々の子どもの心理的な状況を把握できる能力を磨くことを優先とする。</p>	
神経・生理心理学	<p>本講義では、人間の心の働きと生理機能の関係を探る生理心理学と心の働きと脳の関連を調べる神経心理学について基礎的な理解を深めることを目的とする。生理心理学の基礎として脳と神経のしくみや主要な生理心理学の研究対象・研究手法に関する解説を行う。そして、神経心理学の基礎として、脳の疾患によって起こる様々な高次機能障害を理解し、脳と心のメカニズムを学ぶ。講義を通して、①脳神経系の構造及び機能、②記憶、感情等の生理学的反応の機序、③高次機能障害の概要について理解を深めることを目標とする。</p>	
健康・医療心理学	<p>健康・医療心理学では、様々なストレス問題に対する適切なアセスメントとマネジメント、必要な支援に関する知識と技術の習得を目的としている。そのためには、心身症や精神障害などメンタルヘルス不調の未然防止、早期発見・早期治療、社会復帰・再発防止の理解を深めることが重要である。そこで、第1次予防から第3次予防まで、医療現場や保健現場における心理社会的課題及び必要な支援について具体的な活動内容と公認心理師に期待される役割について学ぶ。そのため、本講義では、①ストレスと心身の疾病との関係、②医療現場における心理社会的課題及び必要な支援、③保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援、④災害時等に必要心理に関する支援について講義を行う。</p>	
人体の構造と機能及び疾病	<p>心理専門職として心理的支援を行うためには、心の問題とそれを原因とした身体的問題を生物学的に理解する必要がある。そのため、本講義では、①心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害について理解すること、②がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病について理解することを目指す。人体の成長・発達と老化、身体構造と心身機能、疾病の概要（生活習慣病、悪性腫瘍、心疾患など）や障害の概要（知的障害、発達障害、高次機能障害や精神障害）などについて学ぶ。</p>	

学部内 共通科目	デザイン思考論	<p>「資本主義」の限界さえささやかれており、環境問題や格差拡大など多くの問題が指摘されている。国連サミットでSDGs（持続可能な開発目標）が採択されるなど社会は、大きく舵を切りはじめている。</p> <p>これからの経済社会では、人間中心主義と言われる「デザイン思考」の考え方を必要としている。この授業を通して「デザイン思考」のプロセスを体験しながら経済社会で求められる既成概念（マインドセット）に縛られない「イノベーション人材」の育成を目指す。</p> <p>「デザイン思考」の5つのプロセス「共感→問題定義→創造（アイディア）→試作（プロトタイプ）→検証」に添ったワークショップを通して基礎知識を学び、思考回路を身に着ける。特にプロセスの中で「試作（プロトタイプ）」を実際に作成することでより一層の理解を目指す。その知識を持って行動することで体験的に学ぶ。</p>	
	社会イノベーション論	<p>本授業は、社会の問題発見・課題解決により、「デザイン思考でイノベーション」に取り組める基礎知識の習得を目的とする。</p> <p>「デザイン思考」を学ぶ上で前提として必要な知識、EQ（感情知能）とLT（ロジカルシンキング：論理的思考）の基礎も学ぶ。「自ら考えて行動する人材」に向けての初級入門編として授業をおこなう。EQは、「デザイン思考」のプロセスに取り組む実践の場での対峙能力（人と接する能力）育成。LTは、相手の理解を得る論理性と位置づけて、実践を通して体験から「自ら考えて行動する力」を身につける。</p> <p>これらの取り組みにより、自分の意見を文章にする能力やダイアログ（対話）によるみんなで議論を交えることで人の話しを聞く能力、自らの意見を述べる能力を身につけることを目指す。それによりもともと自分自身が持っている潜在的能力を引き出し、そこから自信を見つけ出してイノベーションのための基礎力を養う。</p>	
	プレゼンテーションの技法	<p>大学生では授業やゼミでの課題発表や、フィールドワークやプロジェクトでの発表など、また社会に出てもプレゼンテーションの機会が多くある。効果的なプレゼンを行うためには、発表内容について充実させ、まとめることが重要であるが、それとは別に、決められた時間内でいかに自分の伝えたいことを話せるか、わかりやすく伝えられるかは、別の技術やテクニック、そのための十分な準備が必要である。</p> <p>この授業ではこれらのために、プレゼンテーションソフトの使い方や効果的なテクニックを学ぶとともに、プレゼンテーションの目的・内容のまとめ方、また実際のプレゼンに向けての準備と実施について学んでゆく。また授業内で個人・グループでのプレゼンテーションを実際に行い、学生間での相互評価もふくめて能力向上を図る。</p>	
	ビジネス心理学	<p>働くうえで、人の心理を理解することは欠かせない。ビジネス心理学では、働く場面での人の心理について学んでいく。人の特徴である不合理な意思決定の様式、交渉や説得、ワークモチベーションに影響する要因、組織内の人間関係とコミュニケーション、リーダーシップ、組織文化、人事アセスメント、ストレスへの対応などについて理解を深める。働く場面での様々な人の心理を概観し、人と労働における心理学の重要性について理解を深めることを目的とする。</p>	
	経済心理学	<p>人は理性的、合理的に行動しているように見えて、感情的、非合理的に行動していることが多い。経済心理学では、行動経済学的なアプローチを中心として、人間の心理面に注目しながら様々な経済現象について講義する。内容としては、経済学と心理学の関係、限定合理性、ヒューリスティクスとバイアス、プロスペクト理論、フレーミング、時間選好と社会的選好、感情の影響などをとりあげる。人々の経済学的な行動を心理学を通して理解することを目標とする。</p>	
	マーケティング論	<p>市場の成熟化や消費者のニーズの多様化と個性化、企業間競争のグローバル化など企業を取り巻く環境は、年々複雑化、困難さを増している。このようななかで、消費者が何を求め、企業がどのようなサービスや商品を提供すべきかを理解するマーケティングの活動の重要性はますます高まっている。本講義では、マーケティングの役割や消費者心理の諸理論を学び、製品やブランド、価格戦略の在り方について講義をすすめる。消費者心理を踏まえたうえで企業活動の在り方を理解することを目標とする。</p>	

粧いの心理学	<p>粧いの心理学では、日常生活において欠かすことのできない「服を着る」という被服行動と、多くの女性が習慣的に行っている化粧行動について、心理学の視点から得られた知見を紹介する。装いの機能・効果の理解を通じて自己の装いを見直し、装いが他者に及ぼす影響を学び、装いという日常的な行為における心理的側面について考える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (辻川 典文/8回)</p> <p>被服に関する心理 (被服と対人行動、被服と身体意識、着想規範、流行など) (犬飼 朋恵/7回) 化粧に関する心理 (美しさの基準、化粧の対自効果と対他効果、化粧の臨床心理学的効果など)</p>	オムニバス方式
家族心理学	<p>家族心理学では、家族の機能、家族内の人間関係、および家族が抱える諸問題について概説し、家族の中で個人がどのようにかわり成長していくのか、家族の発達に対する理解を深める。授業では家族に関する映像や事例などを使用し、受講者がそれについて討論する場を設けるなど受講生参加型の授業を行う。現代社会における多様な家族の在り方を理解する上で必要となる理論や方法を学習し、今後の保育実践や養育に活かす知識を得ることを目標とする。</p>	
子どもから見た世界	<p>それぞれの発達段階にある子どもが体験しているであろう世界を学習することにより、子どもに対して共感的な立場で接することができる視点を養う。胎児・乳幼児から小学生までの子どもの側からみた世界を理解して、それぞれの発達段階の特徴からその子どもが体験するであろうこと、考えるであろうことを推測したり、追体験できる資質を養成する。また、子ども虐待、貧困、ネグレクト、災害に遭った子どもたちなど社会問題の現状をニュースを通じて理解する。</p>	
発達心理学	<p>乳幼児期から老年期に至るまでの人の心身の発達について講義を行う。主に①認知機能の発達及び感情・社会性の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、⑤高齢者の心理を取り上げる。乳幼児期では母子関係を軸とし、対人関係の築き方について学びを深め、次に学童期では主に対人関係で困難を示しやすい、発達障害の児童への理解を深めていく。更に、高齢化により患者数が急増している認知症について、基礎的な知識と、必要とされる心理的ケアについて考えていきたい。</p>	
教育・学校心理学	<p>教育心理学では、心理学の様々な理論や研究知見を用いて、①教育現場において生じる問題及びその背景、②教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について講義を行う。児童や生徒を理解するための自己や他者理解のあり方、学校の問題場面でのコミュニケーションの取り方、児童生徒の学習意欲と教師の働きかけ、学校・学級適応、児童期の劣等感、青年期のアイデンティティと諸問題、いじめの現状と取り組み、非行・不登校などについて理解を深める。児童・生徒一人一人の個人差に着目し、個々に適した対応の方法を身に付けること、生徒の言動からその生徒の感情や意識のあり方を理解できることを目標とする。</p>	
神経心理学	<p>脳損傷患者が示すさまざまな機能障害を手がかりとして、脳と心の間を探る。本講義では、はじめに神経心理学の基礎として、脳と神経のしくみやニューロンに関する解説、神経心理学の歴史の紹介、代表的な高次脳機能障害（失語症、失認症、聴覚・体性感覚の認知障害、感情障害など）について講義形式で紹介する。そして、神経心理学の基本的な考え方を理解し、主要な概念を専門用語を用いて説明できるようになることや、授業で扱った疾患について神経心理学の観点から説明ができるようになることを目指す。</p>	

<p>自然環境と心理</p>	<p>自然環境の心身への影響について、気候療法と特にウォーキングのストレス軽減効果を中心に講義と実習を通して、基礎的な知識を習得する。さらに、地域の森林植物園などで健康増進のための森林ウォーキング・コースを立案し、そのリラクゼーション効果の検討を行う課題解決型の講義・実習とする。自然療法、特に気候療法に関する基礎的な知識や実技を習得すること、健康増進のためのウォーキング・コースを立案し、その心身への効果測定・検討ができるようになることを目指す。</p>	
<p>スポーツ心理学</p>	<p>本講義は体育・スポーツ活動における心理的側面から探求し、意欲や効果的な成果を獲得する為のスポーツ心理学的基礎知識を習得する事を目的とする。体育・スポーツ活動と心の問題（スポーツの生理・心理的効果、人間形成、パーソナリティと情動変化の影響など）、体育・スポーツ活動における運動意欲と動機づけ、スポーツコーチングの心理的問題（技能の習得と向上、練習方法）、カウンセリング、メンタルトレーニング、メンタルマネジメント、運動行動変容などについての理解ができるようになることを目的とする。 (オムニバス方式/全14回) (葦原 摩耶子/7回) スポーツと心、体育教師及びスポーツ指導者の為のメンタルマネジメント、運動と心の健康増進、運動行動変容の理論と実際 (杉山 真人/7回) スポーツにおける動機づけ、コーチングの心理、スポーツカウンセリングの基礎知識、メンタルトレーニング (葦原 摩耶子・杉山 真人/1回) (共同) 身体的・心理的・社会的側面からみた発育・発達</p>	<p>オムニバス方式 共同（一部）</p>
<p>英書講読A</p>	<p>英語構文や英文法を復習することで長文を読む力を身につける。心理学の専門用語を英語で理解する。心理学の基礎的な内容である「感覚・知覚心理学」、「学習心理学」、「認知心理学」、「生理心理学・神経心理学」、「発達心理学」、「人格心理学」、「社会心理学」、「心理学の歴史」、「心理学研究法、統計法」、「異常心理学とその介入」などについて英語で学ぶ。各講義において予習として講読する本の単語などを調べておき、復習として講義内で講読した内容を振り返ることを求める。</p>	
<p>英書講読B</p>	<p>心理学に限らず科学の最先端を知るためには雑誌論文を読まなければならない。そうした科学論文は和文であれ英文であれ、読み手に多義的な理解を許す、奥行きのある表現は必要ない。むしろ、できるだけ簡潔に一義的に理解できるように書かれている。そうした英語で書かれた論文を、各自の興味に従って、日本語の論文と同様に読めるようにすることがこの授業の目的である。目標として、「心理学の英語論文を抵抗なく読むことができること」、「英文法の理解、英文読解の基礎的な力を高めること」、「心理学の専門用語を英語で理解すること」をあげる。</p>	
<p>情報と統計</p>	<p>心理学に限らず、何かを主張したり、何かの主張を読んだりするときに、数値を使うことは客観的・論理的思考の大切なツールである。日常にある問題を解決したり読み取ったりするために、統計の基礎を正しく使えるようになる準備をする。講義では、Excelの基本操作をはじめ、尺度、度数分布とヒストグラム、代表値、散布度、相関、回帰直線、推測統計の基礎について学ぶ。「事実・数値・データで、物事を記述することの有用性を理解すること」、「心理学研究法で扱われる内容を理解するための基礎的な力を身につけること」を目標とする。</p>	
<p>心理学統計法</p>	<p>実験や調査などで得られたデータを解釈するためには、主観を排除し、客観的な指標に基づいておこなわなければならない。その指標を用いるためには、得られたデータが持つ性質を理解し、また使用する指標の基本的な考え方を知る必要がある。心理学統計法では、①心理学で用いられる統計手法を理解すること、②統計に関する基礎的な知識を身に付ける。具体的には記述統計、統計的仮説検定、t検定、相関、カイ2乗検定などについて学ぶ。</p>	

多変量解析	心理学の実験や調査では、3つ以上のデータ間の関連や因果の構造を明らかにする統計手法（多変量解析）がよく用いられる。本講義では、多変量解析法について解説する。本講義では、重回帰分析や分散分析、因子分析などの分析方法について講義する。また、実際のデータを用いながら複数の分析手法を用いた一連の分析プロセスを学び、目的に応じて必要な分析法を使い分ける力、得られた結果から適切に情報を読み取る力を身につけることを目指す。	
心理学研究法Ⅱ	心理学領域の論文を読みながら、そこで用いられている実証的な研究方法(研究計画、尺度構成、統計学的・推計学的手法、倫理的配慮などを含む)を理解し、論文に書かれている内容をきちんと理解できるようになること。そして、そうした理解を通じて心理学研究の全体像をつかむことを目的とする。複数のサンプル論文を読みながら、論文とは何か、論文の批判的読み方、研究における測定と統計について学ぶ。心理学研究の全体像を理解し、自ら理解し、自ら追及していく力を身に付けること、データに基づいた実証的・科学的な思考方法と研究倫理の具体的な方法を考えられるようになることを目標とする。	
心理学実験	心理学実験では、実験の実習を通して、①実験の計画立案ができる力、②統計に関する基礎的な知識を身に付けることを目的とする。これまでに学んできた心理学の諸理論や現象に関する知識、実験実習や研究法で学んだ方法論、心理統計法で学んだ分析方法などをもとにして、自らの興味や関心に沿って研究テーマを設定し、研究の一連の流れを自分でできる力を身に付けることを目指す。これまでの心理学の学びの確認と卒業論文や大学院進学で必要となる研究する力を養うことを目標とする。	
海外心理学研修	海外心理学研修では、カナダ（トロント）において、教育現場や医療現場で特別に支援が必要な子ども達に対する心理的アプローチ（心理アセスメントやカウンセリング、芸術療法、教室における対応など）の実際を見聞することにより、教育・医療現場における心理学の役割について理解を深める。研修を通して、特別な支援が必要な子どもたちへの心理的支援について理解すること、発達障害について理解を深めること、多文化教育における心理的サポートについて学びを深めることを目標とする。	共同・隔年

学部等の設置，収容定員変更

令和2年度 入学 編入学 収容
定員 定員 定員

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
神戸親和女子大学				
文学部				
総合文化学科	60	-	240	
発達教育学部				
児童教育学科	215	-	860	
心理学科	60	-	240	
ジュニアスポーツ教育学科	80	-	320	
計	415	-	1660	
発達教育学部(通信教育課程)		3年次		
児童教育学科	200	400	1600	
計	200	400	1600	
神戸親和女子大学大学院				
文学研究科				
心理臨床学専攻(M)	15	-	30	
教育学専攻(M)	20	-	40	
計	35	-	70	

令和3年度 入学 編入学 収容
定員 定員 定員

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
神戸親和女子大学				
文学部				
国際文化学科	60	-	240	学科名称の変更
心理学科	60	-	240	学科の設置
発達教育学部				
児童教育学科	215	-	860	
ジュニアスポーツ教育学科	80	-	320	令和3年4月学生募集停止
計	415	-	1660	
発達教育学部(通信教育課程)		3年次		
児童教育学科	200	400	1600	
計	200	400	1600	
神戸親和女子大学大学院				
文学研究科				
心理臨床学専攻(M)	15	-	30	
教育学専攻(M)	20	-	40	
計	35	-	70	